



911.3

ゾ

加

合

奥

上

涉 辟 爲 山 編 輯

續今人五百題

弘化甲辰冬發行

五五歌次編之なる
今人五五歌次編之なる
其始なるは回あるは古く
あるは入るも書から文かく
そとと書たるは書を乃て
々人の歌名もはひとちり
うはへりと田子人もちり
さへはなるものかのおろそ

集賢堂人の言とせしを
人々の言を聞きしを
あれいふ言を聞きしを
候しを聞きしを聞きしを
と聞きしを聞きしを聞きしを
りしを聞きしを聞きしを
五つ聞きしを聞きしを
ふにありしを聞きしを

とこしき言にきく乃ち
生れむとて一時は
手取りにきく乃ち
ふにきく乃ち
ふにきく乃ち
ふにきく乃ち
ふにきく乃ち
ふにきく乃ち
ふにきく乃ち

梅をきく

I have been thinking of you very much lately
 and wondering how you are getting on.
 I hope you are well and happy.
 I have been very busy lately
 but I have managed to find some time
 to write you a few lines.
 I have been thinking of you very much lately
 and wondering how you are getting on.
 I hope you are well and happy.
 I have been very busy lately
 but I have managed to find some time
 to write you a few lines.

The first of these is the fact that the
 Government has been unable to secure
 the necessary funds to carry out its
 policy of non-interference. This is
 due to the fact that the Government
 has been unable to secure the necessary
 funds to carry out its policy of non-
 interference. This is due to the fact
 that the Government has been unable
 to secure the necessary funds to carry
 out its policy of non-interference.

吳昌碩

續介人五	百歌春之部	同部
花	一	櫻
逆梅	六	
歲旦之部		
元目	六	初冬
初霜	七	初霜
初雪	八	初雪
初雨	八	初雨
初風	九	初風
初雷	十	初雷
初電	十一	初電
初霧	十二	初霧
初雪	十三	初雪
初雨	十四	初雨
初風	十五	初風
初雷	十六	初雷
初電	十七	初電
初霧	十八	初霧
初雪	十九	初雪
初雨	二十	初雨
初風	二十一	初風
初雷	二十二	初雷
初電	二十三	初電
初霧	二十四	初霧
初雪	二十五	初雪
初雨	二十六	初雨
初風	二十七	初風
初雷	二十八	初雷
初電	二十九	初電
初霧	三十	初霧
初雪	三十一	初雪
初雨	三十二	初雨
初風	三十三	初風
初雷	三十四	初雷
初電	三十五	初電
初霧	三十六	初霧
初雪	三十七	初雪
初雨	三十八	初雨
初風	三十九	初風
初雷	四十	初雷
初電	四十一	初電
初霧	四十二	初霧
初雪	四十三	初雪
初雨	四十四	初雨
初風	四十五	初風
初雷	四十六	初雷
初電	四十七	初電
初霧	四十八	初霧
初雪	四十九	初雪
初雨	五十	初雨

春目二

修保胎	廿六	睦月	廿六	如月	廿七	弥生	廿七
人日	廿七	和の内	廿七	左義長	廿八	蛰引	廿八
傀儡沙	廿八	粗曳	廿八	家	廿九	蛰打	三十
就月	廿九	師	三十	最入	三十	倉卒	三十
春寒	三十	河返	三十	暖	三十	初紅	三十
初雷	三十	燒野	三十	山燒	三十	浮水	三十
雪間	三十	雪解	三十	凍解	三十	春雪	三十
淡雪	三十	東風	三十	春風	三十	春雪	三十
春日	三十	春宵	三十	春の夜	三十	春月	三十
春分	三十	春分	三十	春山	三十	山笑	三十
春遊	三十	陽春	三十	水溫	三十	春草	三十
春餅	三十	二冬	三十	初午	三十	初春	三十

春朗詠	廿四	出代	廿四	雛	廿四	春分	廿四
夏近	廿五	長雨	廿五	春分	廿五	春分	廿五
田打	廿六	利雨	廿六	春分	廿六	春分	廿六
春朗詠	廿七	春分	廿七	春分	廿七	春分	廿七

都分百八十一款

生類之部

[illegible]

時侯之部

日傘	廿一	残帳	廿一	帷子	廿一	辻の芝	廿一
青田	十九	田舎取	二十	扇子	二十	茶扇	二十
火串	十六	早苗	十九	田植	十九	呂乙女	十九
席のゑ	十六	五月	十八	五曜	十八	五山	十八
籠馬	十六	竹除	十六	栞面	十七	五月	十七
熾	十六	糠	十六	松餅	十六	印地打	十六
籠衣	十五	麦秋	十五	麦干	十五	幡	十五
鉈	十四	新茶	十四	和魚	十四	明安板	十四
籠衣	十三	大文救	十三	藝祭	十三	烏	十四
花の巻	十三	佛生会	十三	文也	十二	反書	十三
和月	十二	鼻月	十二	水各月	十二	灌佛	十二
更衣	十一	浴衣	十一	青簾	十一		

夏目二

五加皮	廿二	單物	廿二	米食	廿二	不二法	廿二
熟地黄	廿二	百乞	廿二	一秋酒	廿二	心方	廿三
葛根	廿三	凡	廿三	冷凡	廿三	中藥	廿三
五加皮	廿四	土用	廿四	名干	廿四	暑	廿四
青毛	廿五	夕立	廿五	筆	廿六	籠枕	廿六
竹婦人	廿六	玄瘦	廿六	納涼	廿六	涼室	廿七
涼	廿七	風蒸	廿七	青鼠	廿八	折水	廿八
晒井	廿八	湯水	廿八	小簪	廿九	洲鈴	廿九
川將	廿九	秋迄	廿九	新代	廿九	茅福	廿九
法板	廿九						
若葉	三十	葉振	三十	實振	三十	若楓	三十
植物之部							

新樹	廿一	系折	廿一	茂	廿一	木下園	廿一
夏木立	廿二	青藤木	廿二	楓花	廿二	玉板	廿二
柚花	廿二	樟花	廿二	楓花	廿三	栗花	廿三
合歡花	廿三	度冬子	廿三	櫛櫛至	廿三	柿花	廿三
百日紅	廿三	杜若	廿四	牡丹	廿四	芍藥	廿五
葵	廿五	卯の花	廿五	芥子花	廿六	萩花	廿六
菖蒲	廿六	仲の子	廿六	落	廿六	茄子	廿七
瓜花	廿七	虫豆花	廿七	玄草	廿七	紅花	廿七
金鈴花	廿七	梅子	廿八	百合花	廿八	橘	廿八
若葉	廿八	度冬	廿八	破葉草	廿九	紫陽花	廿九
夕顔	廿九	糸瓜花	三十	藤花	三十	藤新	四十
萍	四十	若蒲	四十	川骨	四十	浮酒	四十一

蓮花

四十一

蓬溪集 四十二

為茶

四十二

不養

平三

約蕙

四十一

養井

四十一

六

四十一

松橋

臣

友朋錄

四十三

都而百七十六

懷今人五言歌詩句集

春之部

涉壁為山

輯

[illegible]

至るまでありの如くあり

朝のまゝをうゑむひと一人は

大正九年四月

卷之九

喜 子 乙 丙 丁 戊 己 庚 辛 壬 癸

方寸
心
一
二
三
四
五
六
七
八
九

氣

梅
鑑

三

黃山

茶 靜

金

虛白

金
世宗

初より一移りぬるをさあつた
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
 花は名もなきけしきも知らず
 彩ひもあつてもさのさうなれ
 せうとて輪もなれや後の世
 花名のしらきにらき那高が
 知念ぐもい着け子料ね
 お工合お戸のまきや月と花
 る花花たあしうらな花
 花の戸はさしやまの戸はし
 花うもも花と花あ、花が宿
 葉の戸は花の明くあつるのこ

風 林 三 北 素 青 其 落 雪 太 尾 睡
 洞 曹 十 高 明 人 山 居 真 長 村 松

花ちと花はいいねを新又う市
 ひとあしうらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ
 花うらな花あつるのこ

金 大 万 了 花 法 社 路 落 松 貞
 堂 鵬 古 枝 々 素 川 辰 夕 什 逆

流芝 咸枝 吳城 眉公 必山 翁子

初冬

知波其
言語山

初曆

乙
癸
丑

初夏

乙卯
歲文

春立

為文芳風
山翠英外

明の春

かきのもえりうおと 明の春
さう 合結あうさうさう 明の春

物家
為山

冬
の春

今明のまゝは 明の春
けいふもあうさうさう 明の春
うさうさうさうさう 明の春
明の春はあうさう 明の春

明家
為谷
明人
明家

冬
の春

向いあふさふ本のあふさふのまゝ
あふさふもあふさふのまゝ 明の春
あふさふもあふさふのまゝ 明の春
あふさふもあふさふのまゝ 明の春

明家
明家
明家
明家

宿
の春

さうさふを 宿の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春

明家
明家
明家
明家

明
の春

さうさふを 明の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春
さうさふもあふさふのまゝ 明の春

明家
明家
明家
明家

柳花飛盡柳絲長
雙柳成陰柳絮香

萬古
弄化

門
松

小松山
穿什
秋香
了校
安岐机
溪雙

汪 懋

夷書按波按
則舉笠諸室

若解

若解の言はやうに笑ひてお
わりのちやも拭きぬかうとたきき

に 若
島 吟

出園

ちがめやむの句いの一に能く
出園や啄本をも見る事をつく

成 元
性 孝

屠種

屠種はるる言ふ品をぬきぬき
屠種のまやれぬ言ははるる

杜 鰲
方 丈

難煮

先んたきし難い今難煮に
流極もわうけきの難煮にわ

若 白
流 方

た箸

た箸の箸うけうけはるる
た箸の箸うけうけはるる
た箸の箸うけうけはるる
た箸の箸うけうけはるる
た箸の箸うけうけはるる

柳 葉
淡 雲
為 山

喰種

喰つるもも喰つるも
喰つるもも喰つるも
喰つるもも喰つるも
喰つるもも喰つるも
喰つるもも喰つるも

由 葉
柳 葉
市 谷
心 阿
耕 芝

蓬萊

蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と
蓬萊のふりふり花や梅松と

悠々 九杞 万古 其枕 謝堂 蓬山

喜初

喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり
喜初や喜初はあけをふりふり

梅家 丁知

海

海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と
海はあけをふりふり花や梅松と

海松 沈松

山

山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と
山はあけをふりふり花や梅松と

山松 山松

花

花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と
花はあけをふりふり花や梅松と

花松 花松 花松 花松 花松 花松 花松 花松 花松 花松

山花

とくもさへ人と思ひては花うれ
ね毎てんまねりて山花は
実袖の立派な花を山花といれ
お内物とていふも和装の山花は
袖の雪拂うて馬の山花といふ

耕
田
家
清
山
山
花

玉

玉をさへ花をさへ花のさへけり
玉をさへ玉をさへ花をさへけり
玉をさへ玉をさへ花をさへけり
玉をさへ玉をさへ花をさへけり

玉
花
山
花

福

福川や花はありて花所
福川や花はありて花所
福川や花はありて花所
福川や花はありて花所

福
川
花
山

子

子や花はありて花所
子や花はありて花所
子や花はありて花所
子や花はありて花所

子
花
山
花

子

子や花はありて花所
子や花はありて花所
子や花はありて花所
子や花はありて花所

子
花
山
花

Dr. J. J. J.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

杜鵑啼血
春風吹綠
柳絮飛花
燕子剪輕盈
斜陽紅似
燒

万世

[The page contains several lines of handwritten cursive script, which appears to be bleed-through from the reverse side of the document.]

[illegible]

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

山 葵 一 具 為 西 勝 龍 寺 琴 雅 什

山 葵 一 具 為 西 勝 龍 寺 琴 雅 什

川のほとりには、花のいさよふに
うきうきと、お花のうきうき
二つあさい、はなれ、やふおし

遠之 大之 伊之

七種

七種や、松子つけと、うきうき
七種や、松子つけと、うきうき
七種や、松子つけと、うきうき
七種や、松子つけと、うきうき

心所 双 雲 雲

芥

芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき

味金 味金

芥

芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき

乃 乃 乃 乃

芥

芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき
芥の月や、芥の月、あかき、うきうき

九 白 陽 芥 社 乃

張

[illegible]

柳絮一把密卷柳
林杪一合止像
由逸以化

[The page contains faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side.]

一物所出者我仁義所由通山如病

[illegible][illegible][illegible]

爲守椰水築之月利木取之
山池下竹狀勢披一室名巴

柳

人やたまたま柳はあつた
 石やうへにまゝ置てもあつた柳は
 川にもうゑあつた柳は
 明うけに市街の柳は
 川のほとりうへにあつた柳は
 湖のうへにあつた柳は
 枝にうゑあつた柳は
 ぬりうゑあつた柳は
 露をうゑあつた柳は
 目をうゑあつた柳は
 春柳の生このまゝ

一具
 五字
 成林
 春柳
 春柳
 春柳
 春柳
 春柳
 春柳
 春柳
 春柳

新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ
 新柳の生このまゝ

新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳
 新柳

来の年

土の如く、
極小の
掘り、土や木の竹
掘入し、その中へも竹を
入れ、是よりけしゆき、木の葉
雪け、古根あらぬもの、竹

為就完莫
山風伍戶

棧

世に
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

建溪 樣石 潭石 里石 尾石 井之

紅梅

[illegible]

祖川
 荷少
 收錄
 瑞夕
 吾室
 三星
 國調
 節之
 旭海
 葵翠
 溪女

蕨の聖

とてふは融るやうなうさの
雲とてふは融るやうなうさの雲
あまのうさ目鏡はあまのうさ
肌つてふは融るやうなうさ
蕨の雲とてふは融るやうなうさ
あまのうさ目鏡はあまのうさ
肌つてふは融るやうなうさ

思文
和光
蕨之
蕨戸
漢古
鼎尤
為山

木芽

木の芽とてふは融るやうなうさ
木の芽とてふは融るやうなうさ
木の芽とてふは融るやうなうさ
木の芽とてふは融るやうなうさ
木の芽とてふは融るやうなうさ

榮靜
且和
一止
青龍

蕨立

蕨立とてふは融るやうなうさ
蕨立とてふは融るやうなうさ
蕨立とてふは融るやうなうさ
蕨立とてふは融るやうなうさ
蕨立とてふは融るやうなうさ

恒春
大鵬
梅意
海長
芳遠
小和
花乃

草

草とてふは融るやうなうさ
草とてふは融るやうなうさ
草とてふは融るやうなうさ
草とてふは融るやうなうさ
草とてふは融るやうなうさ

花乃
小和
芳遠
海長
梅意
大鵬
恒春

鼓草

土著

五木

苦南

蒲之葉平細く、花は海の砂
に似て、花は白く、葉は緑

花は白く、葉は緑、花は
白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は
白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は
白く、葉は緑、花は白く、

南枝
未分

梁山
堅村

主海
馬山

五木
山馬

接木

振分

素橘

時橘、花は白く、葉は緑、花は

花は白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は白く、

花は白く、葉は緑、花は白く、

大鵬

丹井

逢彦山

小松、山

柳、由仁

施

柳の葉は、春の風を
 吹かす。柳の葉は、
 春の風を吹かす。柳
 の葉は、春の風を吹
 かす。柳の葉は、春
 の風を吹かす。柳の
 葉は、春の風を吹か
 す。柳の葉は、春の
 風を吹かす。柳の葉
 は、春の風を吹かす。

一
燈
為
中
高
一
月
河
未
之
星
和
大
春

朝遊

1. The first of these is the fact that the
 2. The second is the fact that the
 3. The third is the fact that the
 4. The fourth is the fact that the
 5. The fifth is the fact that the
 6. The sixth is the fact that the
 7. The seventh is the fact that the
 8. The eighth is the fact that the
 9. The ninth is the fact that the
 10. The tenth is the fact that the

本の心

由 於 各 路 之 不 同 而 成 之 白 麩

藤

申もやそいふも一毎能友
一寸しゝあまのさうり
陽うしねあまをいふも能む
勤いふも賊けさるや友のむ
つやうらふもけさるいふも
ふやうもねもねいふも能む
藤のさうりもねもねいふも
町もあそあそね月ねや友のむ

山吹や端座あそあそたそと盆

由井 茶静 白外 月合 秋合 月合

山吹

山吹や端座あそあそたそと盆
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも
山吹のさうりもねもねいふも

北亭 茶静 為山

山吹

熊の子能ねねいふも能む
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも
土もねのさうりもねもねいふも

生海 ため 狸毛 為了 如く

鶯

うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 葉も枝もささく。山
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈

柳 山 外 木 草 月 際 社 清 風
 外 外 外 外 外 外 外 外 外 外

うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 葉も枝もささく。山
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈
 うしろのやうな鳥の匂い。一丈

眉 物 如 甲 清 未 風 一 相 荷 青 漢
 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物 物

春やけしういあひの小一丁
 うきむすのうもひくし初音
 るのや春けし初音
 春や果もあき世の初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音

春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音

猫の恵

春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音

春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音
 春のまゝもひくし初音
 春やけし初音
 うきむすのうもひくし初音

由來竹葉村風
由來竹葉村風

春
初

春ハ初モさひ〜〜〜の丁の色
りも同〜〜〜の丁
余の初ハ〜〜〜の丁

春
初
沙
水

春
初

初ハ初モさひ〜〜〜の丁の色
りも同〜〜〜の丁
余の初ハ〜〜〜の丁

春
初
沙
水

乙
島

乙島ハ初モさひ〜〜〜の丁の色
りも同〜〜〜の丁
余の初ハ〜〜〜の丁

乙島
沙
水

駒子

駒子やうつゝ遠くを門
駒子やうつゝ遠くを門

文叔
駒子

うそ

座いふはゆゑに座をうら
うそをゆゑに座をうら

双
座

朝

朝のうらまや朝のうら
朝のうらまや朝のうら

溪
朝

入島

入島のうらまや入島のう
入島のうらまや入島のう

岩
入

蝶

蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら
蝶のうらまや蝶のうら

蝶
蝶
蝶
蝶
蝶
蝶
蝶
蝶
蝶
蝶

蛇

蛇身少や伸くくくく 相の苗
蛇く刈落のさねあり字のてふ
蛇く大招撫をも 舞 小蝶
蛇身少や舞くくくくくくく
くくくくくくくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
居別くくくくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく

蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく
蛇身少や舞くくくくくくく

蜂

蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく

蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく
蜂の身もくくく入城の身もくく

蛭

蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく

蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく
蛭の身もくくく入城の身もくく

蛤

蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく

蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく
蛤の身もくくく入城の身もくく

田鰯

町守て中や田鰯の雲は舞
りまふ友をよや田鰯はしを舞ひ
りまふけいこもあや田鰯
るるよ田鰯をよや田鰯
るるよ田鰯をよや田鰯
り田鰯や田鰯のふりまふ
りまふや田鰯のふりまふ
遠止てあや田鰯をよや田鰯

町守て中や田鰯の雲は舞
りまふ友をよや田鰯はしを舞ひ
りまふけいこもあや田鰯
るるよ田鰯をよや田鰯
るるよ田鰯をよや田鰯
り田鰯や田鰯のふりまふ
りまふや田鰯のふりまふ
遠止てあや田鰯をよや田鰯

源 榮 勝 石 系 一 幻 双
是 舞 和 丈 竟 塘 外
柳 推 外

蛙

人妻小村あり蛙の
るのりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる
りる蛙のりる蛙のりる蛙のりる

知 言 三 尾 丁 三 長 和 有 荷 半
言 星 村 知 字 府 吟 少 池

小紙

あつたふり南のふり小紙が
二枚も成つてつやのふり紙
ふりも成つてつやのふり紙

蓬字
松花
蓮花

琴

番個ふり紙のふり紙
那柳も紙のふり紙
口紙のふり紙
紙のふり紙
紙のふり紙
紙のふり紙

心河
仙洲
出帆
文叔
院南
叶憲

乃

乃のふり紙のふり紙

乃

乃のふり紙のふり紙
乃のふり紙のふり紙
乃のふり紙のふり紙
乃のふり紙のふり紙
乃のふり紙のふり紙
乃のふり紙のふり紙

由典
乃阿
乃古
乃吟
乃海
乃外
乃院

保

保のふり紙のふり紙
保のふり紙のふり紙
保のふり紙のふり紙
保のふり紙のふり紙
保のふり紙のふり紙
保のふり紙のふり紙

保静
保令
保年

睦

月

移るより春のふとむ月うれ
 空結つけと云月の乃正月外
 四月や秋をくつ門の春
 四月の雨は月影ひくゆふ外
 四月の空をくつ門の春
 四月や子供をくつ門の春
 四月で候もをくつ門の春
 四月の夕陽をくつ門の春
 四月をくつ門の春
 四月も今に二月のまゝなり

大官夫
 和什
 風外
 落村
 台々
 清素
 藤戸
 如々
 健山
 契外
 名吟
 全官

月

移るより春のふとむ月うれ
 空結つけと云月の乃正月外
 四月や秋をくつ門の春
 四月の雨は月影ひくゆふ外
 四月の空をくつ門の春
 四月や子供をくつ門の春
 四月で候もをくつ門の春
 四月の夕陽をくつ門の春
 四月をくつ門の春
 四月も今に二月のまゝなり

茶静
 道陽
 万丈
 明家
 草屋
 葵翠
 落村
 弄仁
 茶静
 水井
 由松

弥生

門ありて所を知らずと云ふは生か
田の邊に於て一睡をせしむる如
く教を能く教へていふは生か

榮靜
了枝
意添

人日

人の心と云ふは一池の水に於て
人知れず人の心を知らずと云ふは

大鵬
吉人

松の
内

一木と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く

添芳
有荷
波路
丁知
為山

左義長

彌引

左義長を云ふは一松の如く
此松の松と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く
松の心と云ふは一松の如く

左義
添芳
有荷
波路
丁知
為山
松引
彌引
彌引
彌引
彌引
彌引
彌引
彌引

傀儡師

窮乏ふ方のあつゝや傀儡師
始細を撫てゝや傀儡師

拙ふ
不獲

根曳

美城くまゝのふと様也
富く根や田原のふと様也

重
彦

夢

夢より夢あやふのめまな
旅人ふつゝの夢をいふ
まゝあやふ山の夢をいふ
夢ふやうけて夢のうたを
夢のうたをいふ

一具
布玉
退歩
淡谷
任阿

夢をいふと夢をいふと
根をいふと根をいふと
目をつむと目をつむと
あつゝの夢をいふと
いふといふと
田原の夢をいふと
鐘の夢をいふと
夢をいふと夢をいふと
あつゝの夢をいふと
人あけの夢をいふと
夢をいふと夢をいふと

田原
厚郎
原
る
外
立
夢
之
江
大
祖
芳

入教

や入の森部。むけ。し。燈。が
教入の結末。う。の。松。り。れ
や。入。や。ま。う。い。ま。う。遠。入。に
教入を。か。う。や。門。小。深。さ。し。て
暢。う。あ。く。や。入。入。る。や。ち。男
や。入。の。見。中。あ。う。う。け。と。金
教入や。お。り。う。川。の。あ。海。さ。
や。入。の。叫。れ。あ。の。ま。あ。う。れ
教入や。わ。う。あ。う。あ。う。龍。の。時。屋
や。入。の。あ。う。う。う。う。交。交。な。か
教入の。あ。う。う。う。あ。う。あ。う。免

了枝
言外
白文
松金
立金
如牛
為毛
江月

念寒

春

梅。枝。て。梅。あ。う。う。う。う。う。れ
別。う。う。う。う。う。う。う。う。ん。か
拂。う。た。月。金。う。う。う。う。う。れ。地。巴。う
張。立。の。梅。ふ。り。張。う。う。う。う。う。れ。か
咲。う。う。う。梅。を。あ。う。う。う。う。う。れ。か
さ。う。う。う。う。金。う。う。う。う。う。う。う。う。れ。か
あ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ。か
人。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ。か
田。の。あ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ。か

了枝
言外
白文
松金
立金
如牛
為毛
江月

う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。れ

了枝
言外
白文
松金
立金
如牛
為毛
江月

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

[illegible]

一

春日

ふつにのちあつしきき
いそぎと理ふ人の物さふ
るこねとけうく夫のき
竊の事とけうく夫のき
けうく子の事とけうく夫のき

北如梅茶
井變寂望柳

喜會

其の膏を搦れ分るもあてんて
焼おろし餅の石あきや其の膏

砂粒
重粒

春の
お

その取や細箇切なるを
けのおやせふをむのかと

榮新
月兮

夏海

丁うけし海より月やうき海
月のあけくさやうきそのうき

高谷
山

春山

それふ春山ありて春の山
雪あけくさの海や山は形
ちるわなうと海は流るや春の山

逸
品
文
筆

山笑

春ふきもうき海よりや春の山
秋ふけくさの海や山は形
春ふきもうき海よりや春の山

一
主
秀
三
和

水

温

かけり海よりや春の山
うけり海よりや春の山
うけり海よりや春の山
かけり海よりや春の山

柳
外
外
外

一面は海よりや春の山
一面は海よりや春の山
一面は海よりや春の山
一面は海よりや春の山

一
只
海
海
海

海苔

さしこの伸もささし海苔菜が
海苔無菜のさしや海苔人海苔のさし
さし海苔人海苔のさしや海苔の味

乙 良
一 才
田 獲

草餅

餅

志旗山のうへにささし草餅
海苔のうへにささし草餅
一 枚 海苔のうへにささし草餅
草餅のうへにささし草餅

砥 岩
市 之
尾 村
青 南

二

餅

海苔のうへにささし草餅
海苔のうへにささし草餅
二 枚 海苔のうへにささし草餅
海苔のうへにささし草餅

西 馬
和 定
氏 代

初年

餅

初年や海苔のうへにささし草餅
初年や海苔のうへにささし草餅
初年や海苔のうへにささし草餅
初年や海苔のうへにささし草餅

原 池
大 鵬
一 止
文 叔
下 枝
素 屋
獲 物

波岸

波岸のうへにささし草餅
波岸のうへにささし草餅
波岸のうへにささし草餅
波岸のうへにささし草餅

里 東
之 星
高 山

ちふ ちふ ちふ ちふ ちふ ちふ
 ちふ ちふ ちふ ちふ ちふ ちふ

文 乙
叔 乙

涅

解

福と云や何あやふ事か
 其のつゝも福や福と云像
 唯このふゝもあやふ事像
 福と云や何あやふ事か
 あやふ事か福と云や福と云像
 其のつゝも福や福と云像
 人の世にふゝもあやふ事像
 山や谷の中も福と云像

二 軍 完 凡 西 書 表 山
近 形 伍 村 畧 府 病 外

西行志

旅情
初至
旅中
旅後

由是
據此

永

日

雲も霞も海もその水も
 潮曲一層もさへもなり水も
 かななり所の海もさへも
 かななり所もさへもなり水も
 かななり所の海もさへも
 かななり所もさへもなり水も

九舍楚安素并
高利石帆明仁

智通

善くしてさう
能くしてや
能くして
揚子江の
能くして

善心

出代

出代や花つるうらなむの世
出代や花のうらなむの世
出代や花のうらなむの世

雷 只 陽 牛
最 清 成 化

雛

雛のうらなむの世
雛のうらなむの世
雛のうらなむの世

虚 多 生 源 未 如
公 女 海 枝 公

雛合

雛のうらなむの世
雛のうらなむの世
雛のうらなむの世

仁 兼 双 不 知 一 仏
新 雛 雛 言 画 先
力 有 有 有 有 有

田打

細くもあは 連河 旅 終
おうけり 花 出 ぬ け
宿 へ ぬ 細 打 ち ぬ ち 金
細 打 の 寄 ち ぬ ち 金

ね 什
一 番
春 月
お 山

別霜

あや 田 打 ち ぬ ち 金
つ け ぬ 田 打 の 寄 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金

春 月
ね 什
一 番
春 月
お 山

峯入

峯 入 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金

ね 什
一 番
春 月
お 山

夏迄

夏 迄 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金

ね 什
一 番
春 月
お 山

夏隣

夏 隣 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金

ね 什
一 番
春 月
お 山

源

源 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金
あや 田 打 ち ぬ ち 金

ね 什
一 番
春 月
お 山

行善

I have been thinking of you
 and wondering how you are
 getting on. I hope you are
 well and happy. I have been
 very busy lately, but I
 have managed to find some
 time to write to you. I
 hope you will find this
 letter interesting. I have
 been thinking of you very
 much lately. I hope you
 are well and happy. I
 have been very busy lately,
 but I have managed to find
 some time to write to you.

一山影遠
孤松出
透石
之山
為山

丁未

The first of these is the
 fact that the population
 of the world is increasing
 at a rapid rate. This is
 due to a number of factors,
 including improved medical
 care, increased food supply,
 and a general increase in
 living standards. The result
 is that the world is becoming
 more crowded, and this has
 led to a number of problems,
 including pollution, over-
 crowding, and a shortage
 of natural resources. These
 problems are likely to become
 even more serious if the
 population continues to grow
 at its present rate.

丁亥養一為唐吳為昭大德
知平之唐山心城文知昭親

あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ

而外 幻 漢 柳 窓 一 生 大 乙 長
而外 幻 漢 柳 窓 一 生 大 乙 長

あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ
あゝややの月切の就子つゝ

虚 金 柳 樵 柳 一 由 名 名 約
虚 金 柳 樵 柳 一 由 名 名 約

漢 咄 護
雙 義 物

句切

胆 寧
脾 益

子問

急如掣
如奔如
掣如奔

弱冠

標由
約由

洞

校者

新之
葵戸
南枝

青

臨

祖公 月兮 宗女 由哲

信來

甲子

信來未及月餘
友來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘

一
出
半
友
其
山
興
城
之
外
嘉
之
之
丈
年

信來

信來未及月餘
友來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘
信來亦未及月餘

一
出
半
友
其
山
興
城
之
外
嘉
之
之
丈
年

秋 橋 尖
鳥 曲 向

一、馬の毛は、あつちとあつちと
馬の毛は、あつちとあつちと
馬の毛は、あつちとあつちと

漢 英 岐
古 戶 縣

鯢

川あそふ物身を屈むや膝の縄
 居起りあそむ縄の思ふとき
 人の身も縄のふくむとき
 あつ縄のふくむとき
 縄ひくはくもあつあつ
 縄ひくはくもあつあつ
 縄ひくはくもあつあつ
 縄ひくはくもあつあつ

波社 如瓦 二茶
文以 九村 星柳

魄

WP

是語之聲探支反也 曉 叩

三
星
山

又

雲のうら 池へ飛とう 雲一つ
 新くも 雲の飛おと けへとう
 雲も 雲ぬちも 雲のあ
 らうと 飛のを 雲に命が
 せうと 雲のうら 雲のうら 雲のうら

雲虛風輕松
溪山樓毛堂

敏權

改けりしをききやふおひき
改けりしをききやふおひき
改けりしをききやふおひき

半谷
去由

蚊

蚊

蚊は蚊の音のきこゆる所は
川の水のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は

蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は

春月
青房
法素
為涇
碧山
林曹
田樊

眉白
婦付
原前

蚊

蚊

蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は

蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は
蚊の音のきこゆる所は

在尔
双柳
杜若

仙達
花
馬
風外

更衣

衣をあらうとあつてゐてもいへ
 老の身はひつねのつ文衣
 襦袢は白ふき——あらもいへ
 子を抱きつゝ——身はうき衣
 床の傍にうき衣をあつてもいへ
 移るゝ先をさう——文衣
 さう——時をあらう——衣衣
 何やや——うき衣をあつてもいへ
 更衣先うき衣の類——うき衣
 移るゝ親の仕度や——文衣
 時をあらう——衣衣

風朗 黄山 汝和 素明 松堂 小打 南風 西崎

袷

老の身は袷のつ文衣
 袷は白ふき——あらもいへ
 子を抱きつゝ——身はうき衣
 床の傍にうき衣をあつてもいへ
 移るゝ先をさう——文衣
 さう——時をあらう——衣衣
 何やや——うき衣をあつてもいへ
 更衣先うき衣の類——うき衣
 移るゝ親の仕度や——文衣
 時をあらう——衣衣

丁知 三星 成枝 松堂 南風 小打 西崎

孫板

青

薦

てねやをいふいゝうを
あやや、いふをいふ二二
あやや、いふをいふのうへ

お什
市枝
柳雙

そのいふ、柳、柳、いふ、いふ
あやや、いふ、いふ、いふ、いふ
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ
柳、いふ、いふ、いふ、いふ
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ
いふ、いふ、いふ、いふ、いふ

柳付
市枝
柳雙
西崎
赤岳
市枝
柳雙

卯月

卯月

卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月
卯月、卯月、卯月、卯月、卯月

柳雙
市枝
柳雙
西崎
赤岳
市枝
柳雙

お
毎
月

灌
佛

六月やうき山一の山
六月やうき山一の山
六月のうき山一の山
六月のうき山一の山
六月のうき山一の山
六月のうき山一の山
六月のうき山一の山
六月のうき山一の山

多
茶
時
葵
葉
若
草

灌
佛
や
う
き
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山

宣
葉
戸
松
精
花
日
若

花
佛
堂

佛
生
云

夏
花

花
佛
堂
の
う
き
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山

一
若
葉
金
金
金
金
金
金
金
金

夏
花
の
う
き
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山
一
の
山

迦
弥
外
山
山
山
山
山
山
山
山

夏書

お橘——やまもふにむなやふ
お高をふくくやふくふささる
就のふふにむなやふ——ふふりれ

進休
休
秋

大矢教

お新ふむ大矢教ふふのふふを
袖のふふふふふふふふふふ

由英
乃山

大矢教

お教を撫ふふふふふふ大矢教
乙ふふふふふふふふふふふ

芦島
庄海

お人のふふふふふふふふふ

林
乃山

大矢教

お新ふむ大矢教ふふのふふを
袖のふふふふふふふふふふ

大
南枝
洲
柳
竹

大矢教

お新ふむ大矢教ふふのふふを
袖のふふふふふふふふふふ

大
南枝
洲
柳
竹

新菜

新菜を煮て、まぐろの新菜を
一土瓶に入れて煮る。新菜は

山外

魚

初魚を煮て、新菜のまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、新菜のまぐろを
煮立て、新菜のまぐろを

丁見

明

明を煮て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを

一立

短

夜

短を煮て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを

源松

麦

秋

麦を煮て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを
煮立て、まぐろのまぐろを

石松

あき

あきをやるは使をさるる
あきをさるるは使をやる

由 杖
力 丈

厨

あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる

孫 人
あ 人
因 倉
和 倉
其 山
一 武
弄 化

職

あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる

北 杖
雪 杖
寒 杖
悲 杖
泣 杖

糶

あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる
あきをさるるは使をやる

一 杖
西 杖
あ 杖
井 杖

柏餅

たうもいちち新や松もち
柏餅のいさくのうていへと餅

丁知
林角

印
地打

ちるのうあういぬ印地あ
お浪をわいあ印留うちとて給

分元
深め

競馬

うまのうけのきこしうなう
うまの鼻をきこ競馬分

波回
在史

井
井

井松と清い井松のふりぬ
井一井又堀い井松あき

梅史
葵家
相人

梅
る

山のひらうきなりメ松松中
いさきめ結きいあも松を梅あか
入梅時のふりうけのふりうけ

芦煮
梅あき
紫あき
松登

五
月
雨

まじつともおめ松や五月る
まじつ松のあきそ屋や五月る
まじつやむつあきまじつ
まじつたれの井もあきぬうけ
まじつもく田あきまじつ申あき

梅家
吉家
魯心
孤翠
浪辰
青耐

山外父
 英外父
 石外父
 松什
 遠芳
 遠間
 官首
 市枝
 城兄
 了
 永久

虎

方

月

南枝
 孫
 外
 井
 官
 蔡
 守
 什
 學
 星
 方

石壁

日の入るつやうに、うしろに壁が
あつた。うしろに壁が

程毛
桃李

石山

石のやうな、うしろの、申く
なや、うしろの、申く

石山
桃李

火

津

ええと、あつた。うしろの、火津が
言ちの、あつた。うしろの、火津が
あつた。うしろの、火津が
あつた。うしろの、火津が

火津
桃李
護物

早苗

早苗、うしろの、早苗が
早苗、うしろの、早苗が
早苗、うしろの、早苗が
早苗、うしろの、早苗が

早苗
桃李
護物

田植

田植、うしろの、田植が
田植、うしろの、田植が
田植、うしろの、田植が
田植、うしろの、田植が

田植
桃李
護物

子
乙
女

まゝ廿の片袖を有る者ありき
まゝ乙女や浮苗くそなふ炭の
まゝ乙女やなまこ上戸の一ふり

丁北山
知松山

青田

[illegible]

梅 悠 狂 酸 北 素 習
室 毛 江 汀 商 井

回
子
子

夕和付ヤ星をふりて田舎に
裸子小就車中より云々田舎に

德 德
容 容

扇子

[illegible]

松必習萬意抱端露
登山竹像沐像星空

过

[illegible]

白 桑 葉 蓮 柳 花 雙 丁 丁 紫
路 垂 屋 下 花 柳 面 知 新

草木

少全

屬士
福

味も多しあつてめでたし
 味も多しあつてめでたし
 味も多しあつてめでたし
 味も多しあつてめでたし

いかに諸君をいねむる者なり
と仰ておきて富士の下向也

弄 焦
化 魚

遙遊
應變
為山

遼海
竿友

神

園

屋

神園屋のありては、こゝろは、
名、一、一、一、一、一、一、一、一、
神園屋のありては、こゝろは、
神園屋のありては、こゝろは、

由 五 生 物 受
由 向 流 受

雨

乞

雨乞のありては、こゝろは、
雨乞のありては、こゝろは、
雨乞のありては、こゝろは、

由 浅 携 由

一 板

一板のありては、こゝろは、
一板のありては、こゝろは、
一板のありては、こゝろは、

由 板 携 由

右

右のありては、こゝろは、
右のありては、こゝろは、
右のありては、こゝろは、

由 板 携 由

着

水

着水のありては、こゝろは、
着水のありては、こゝろは、
着水のありては、こゝろは、

由 浅 携 由

底

底のありては、こゝろは、
底のありては、こゝろは、
底のありては、こゝろは、

由 浅 携 由

in

五言古詩
五言古詩

冰 柳
青 李

雪の峰

[illegible]

方山納芳
山影重
芳友圖

畫

寐

土用

看居の事、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

不 爲 幻 丹 小 地
鵬 了 外 化 打 像

虫

干

虫の干すは多し。土利干すは少し。
五斗升の虫干す。土利干す。
虫干す。土利干す。
虫干す。土利干す。

九杞
虫干
土利

暑

暑の干すは多し。土利干すは少し。
五斗升の暑干す。土利干す。
暑干す。土利干す。
暑干す。土利干す。

一斗
暑干
土利

天

天

天の干すは多し。土利干すは少し。
五斗升の天干す。土利干す。
天干す。土利干す。
天干す。土利干す。

天干
土利

丹井 雙柳 松亭 蒼戶

芳
龍

岐山
岐山

水

健山 夢戶 答處 九歌

井

為秋
山香

清水

此水乃山泉所出，其味甘美，
 且能解渴，誠為消暑之良藥也。
 凡遇炎夏，口渴難耐，飲此水則
 精神爽快，誠不可少之品。此水
 之清，非筆墨所能形容，其色如
 玉，其味如蜜，誠為天下之第一
 清品也。凡欲飲此水者，須早往
 山泉處，以免向隅。此水之清，
 誠為天下之第一清品也。

此水乃山泉所出，其味甘美，
 且能解渴，誠為消暑之良藥也。
 凡遇炎夏，口渴難耐，飲此水則
 精神爽快，誠不可少之品。此水
 之清，非筆墨所能形容，其色如
 玉，其味如蜜，誠為天下之第一
 清品也。凡欲飲此水者，須早往
 山泉處，以免向隅。此水之清，
 誠為天下之第一清品也。

林池

此池之水，乃山泉所出，其味甘美，
 且能解渴，誠為消暑之良藥也。
 凡遇炎夏，口渴難耐，飲此水則
 精神爽快，誠不可少之品。此水
 之清，非筆墨所能形容，其色如
 玉，其味如蜜，誠為天下之第一
 清品也。凡欲飲此水者，須早往
 山泉處，以免向隅。此水之清，
 誠為天下之第一清品也。

此池之水，乃山泉所出，其味甘美，
 且能解渴，誠為消暑之良藥也。
 凡遇炎夏，口渴難耐，飲此水則
 精神爽快，誠不可少之品。此水
 之清，非筆墨所能形容，其色如
 玉，其味如蜜，誠為天下之第一
 清品也。凡欲飲此水者，須早往
 山泉處，以免向隅。此水之清，
 誠為天下之第一清品也。

卷一

Handwritten text in Urdu script, likely a continuation of the letter or a separate note.

下
看
房
寫
文
如
此
人
如
我

卷之七

[The page contains several lines of handwritten cursive script, which appears to be bleed-through from the reverse side of the document.]

西松万紫
村易登
南水校

那裏

[illegible]

附

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the previous page, consisting of several lines of text.

卷

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

卷之六

鴻禧
 石渠
 寶笈
 初編
 卷之
 九
 著
 者
 爲
 心
 性
 之
 理
 也
 居
 乎
 此
 世
 而
 不
 知
 性
 之
 理
 則
 其
 爲
 人
 也
 必
 有
 其
 不
 足
 於
 道
 者
 矣
 此
 書
 之
 旨
 在
 於
 此
 也
 故
 其
 論
 性
 之
 理
 必
 有
 其
 精
 微
 之
 處
 而
 不
 可
 不
 察
 也
 此
 書
 之
 旨
 在
 於
 此
 也
 故
 其
 論
 性
 之
 理
 必
 有
 其
 精
 微
 之
 處
 而
 不
 可
 不
 察
 也

牡丹

花うけり代はまきうきうき
一二羽おきし海もなうき
あのをきやうきうき牡丹
造化はたこもあきうき

深市
凡村
板江
為山

うきうき牡丹のまきうき
まきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき

国訓
立本
徳山
岩屋
引乙
波文

芍薬

葵

花うきうき牡丹のまきうき
一輪うきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき
うきうき牡丹のまきうき

外水
女
三星
月兮
凡村
為和

芍薬や草のまきうき
芍薬や草のまきうき
芍薬や草のまきうき
芍薬や草のまきうき
芍薬や草のまきうき

昇化
石向

葵のまきうき
葵のまきうき
葵のまきうき
葵のまきうき
葵のまきうき

庭深
山外

邦の
也

卯のむやもけふさ、春の朝晩
暖かなあつたお卯のめいれ
卯のむやうさるの味もひ
卯はちのきんも知りなぬね
おめをや隣へゝむるの鐘
うねむをうつけふるお梅が
このむよ世代々壽の男これ
何となく卯のむやうあつた
あつたお卯のむのめいれ
卯のむや何もうけりてあつた
おのむやあつたあつた

一經公論
山公論
案行
路合
楊枝
成枝
柳枝
流芳
祖德

子 子

范

小畑のうゝを おゆやちりけむ
 ちりけむ やゆふとく旅しそ
 ちりぬの小るふあやけ一のど
 船のお出あゝさうちりそへん
 川なるふ坂の地しちりのそふ
 うけけむちりけいの系なほ
 ねたやけいさるねまき
 けよりむと持つてくれ
 萩のあや何あゝさきよしの川
 河中の海ものまゝくらせむ

仙遊孤山由林友松子為
謝堂築石以

茶

47

第...
第...
第...

1. The first
 2. The second
 3. The third
 4. The fourth
 5. The fifth
 6. The sixth
 7. The seventh
 8. The eighth
 9. The ninth
 10. The tenth

— ۱۰۰ —

外水源林
原乙宗
宗政權
物
林
馬

3

花

24
100

[illegible]

[Faint handwritten notes at the bottom of the page]

1. The first part of the text is a list of names and dates, which appears to be a record of some kind. The names are written in a cursive script, and the dates are written in a more formal, printed style. The names are: "John", "Mary", "James", "Elizabeth", "Thomas", "Sarah", "Michael", "David", "William", "Richard", "Robert", "Henry", "George", "Charles", "Edward", "John", "Mary", "James", "Elizabeth", "Thomas", "Sarah", "Michael", "David", "William", "Richard", "Robert", "Henry", "George", "Charles", "Edward". The dates are: "1790", "1800", "1810", "1820", "1830", "1840", "1850", "1860", "1870", "1880", "1890", "1900", "1910", "1920", "1930", "1940", "1950", "1960", "1970", "1980", "1990", "2000".

丁巳年
九月
廿五日
丁巳年
九月
廿五日

櫛

櫛や中らふ古き 櫛 并
たらしふれあふ櫛も 櫛あふ

櫛内 櫛外

著義

著義はやきく 著義をく 工法
る 著義はく 著義をく 著義の

力丈 惟字

書

款

書款のきく 書款をく 書款を
書款や 書款をく 書款をく 書款を
書款や 書款をく 書款をく 書款を

多倉 陸磨 日病 延城 櫛馬 由

紫

紫

紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく

紫 紫 紫 紫

紫

紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく
紫のきく 紫をく 紫をく 紫をく

紫 紫 紫 紫 紫 紫 紫 紫 紫 紫

[illegible]

[The page contains faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side.]

師歸
補
之
如
金
方
疏
疏
芳
友
府
樗
由
芝

夕 養

[The page contains approximately 10 lines of handwritten cursive script, which appears to be bleed-through from the reverse side of the document.]

金小石仙方一素雅之
時有雅趣

藻

荇

あまのしと思ひ、みづを藻荇が
うきとわらふ事もさねや藻荇が

大鵬
鳥

萍

萍のきくやいふ所の柳が下
うき子のせむし教を海をく

茶静
三

葛

蒲

あやせうく葛葉、あやせうく
四方ふのうら葛葉、あやせうく
おしうて一つ、うらあやせうく
人よ新えき、あやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく

淡高
月
相
系
万
英

川

骨

河骨やあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく

由
松
家
知
南

澤

漚

あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく
あやせうくあやせうくあやせうく

横
高

The first part of the
 paper is a list of the
 names of the persons
 who have been
 admitted to the
 office of the
 Secretary of the
 Board of Education
 since the year 1860.
 The names are given
 in alphabetical order
 and are accompanied
 by the date of their
 admission. The list
 is as follows:



曆介人止百與秋之部目錄

晴後之部

| | | | | |
|-----|-------|------|-------|----|
| 名月 | 一令月 | 二月令雪 | 二西月 | 二 |
| 秋月 | 三月 | 三初月秋 | 五二月 | 五 |
| 六月 | 五侍雪 | 六十六秋 | 六正月 | 七 |
| 龍田那 | 七文月 | 七正月 | 八正月 | 八 |
| 初秋 | 八立秋 | 九介秋秋 | 九七月 | 九 |
| 星合 | 十立琴 | 十小神 | 十秋秋 | 十 |
| 推多 | 十一毛川 | 十一振鏡 | 十二加鏡 | 十二 |
| 高娘鏡 | 十二牙家盆 | 十二攝侍 | 十二門家 | 十二 |
| 近火 | 十三送生 | 十三草市 | 十三魂家 | 十三 |
| 玉柳 | 十三柳經 | 十三墓系 | 十三生又魂 | 十四 |

目一

| | | | | | | | |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|
| 盆の月 | 十四 | 踊 | 十四 | 西風 | 十五 | 花火 | 十五 |
| 粥 | 十五 | お様 | 十六 | 秋 | 十六 | 忘 | 忘 |
| 秋 | 十七 | 初 | 十七 | 霧 | 十七 | 霧 | 霧 |
| 二百十 | 十九 | 編 | 十九 | 暴 | 二十 | 速 | 速 |
| 藤 | 二十 | 木 | 二十 | 田 | 二十 | 豆 | 豆 |
| 初 | 廿一 | 八 | 廿一 | 引 | 廿一 | 放 | 放 |
| 西 | 廿二 | 子 | 廿二 | 引 | 廿二 | 子 | 子 |
| 西 | 廿三 | 鮎 | 廿三 | 鮎 | 廿三 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿四 | 河 | 廿四 | 沙 | 廿四 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿五 | 河 | 廿五 | 鮎 | 廿五 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿六 | 河 | 廿六 | 鮎 | 廿六 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿七 | 河 | 廿七 | 鮎 | 廿七 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿八 | 河 | 廿八 | 鮎 | 廿八 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 廿九 | 河 | 廿九 | 鮎 | 廿九 | 鮎 | 鮎 |
| 西 | 三十 | 河 | 三十 | 鮎 | 三十 | 鮎 | 鮎 |

| | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|---|
| 秋 | 廿七 | 河 | 廿七 | 鮎 | 廿七 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿八 | 河 | 廿八 | 鮎 | 廿八 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿九 | 河 | 廿九 | 鮎 | 廿九 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 三十 | 河 | 三十 | 鮎 | 三十 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿一 | 河 | 廿一 | 鮎 | 廿一 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿二 | 河 | 廿二 | 鮎 | 廿二 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿三 | 河 | 廿三 | 鮎 | 廿三 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿四 | 河 | 廿四 | 鮎 | 廿四 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿五 | 河 | 廿五 | 鮎 | 廿五 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿六 | 河 | 廿六 | 鮎 | 廿六 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿七 | 河 | 廿七 | 鮎 | 廿七 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿八 | 河 | 廿八 | 鮎 | 廿八 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿九 | 河 | 廿九 | 鮎 | 廿九 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 三十 | 河 | 三十 | 鮎 | 三十 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿一 | 河 | 廿一 | 鮎 | 廿一 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿二 | 河 | 廿二 | 鮎 | 廿二 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿三 | 河 | 廿三 | 鮎 | 廿三 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿四 | 河 | 廿四 | 鮎 | 廿四 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿五 | 河 | 廿五 | 鮎 | 廿五 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿六 | 河 | 廿六 | 鮎 | 廿六 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿七 | 河 | 廿七 | 鮎 | 廿七 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿八 | 河 | 廿八 | 鮎 | 廿八 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 廿九 | 河 | 廿九 | 鮎 | 廿九 | 鮎 | 鮎 |
| 秋 | 三十 | 河 | 三十 | 鮎 | 三十 | 鮎 | 鮎 |

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|
| 芳 | 卅九 | 梅如 | 卅九 | 龍溪 | 四十 | 魚 | 四十 |
| 芋 | 四十 | 雀麦 | 四十 | 木犀 | 四十 | 木の葉 | 四十 |
| 推冥 | 四十二 | 薔 | 四十二 | 薔 | 四十二 | 葉 | 四十二 |
| 碧栴 | 四十二 | 木織川 | 四十二 | 葉 | 四十二 | 葉 | 四十二 |
| 初子系 | 四十二 | 石系 | 四十二 | | | | |
| 生 | 四十二 | 石系 | 四十二 | | | | |
| 秋蟬 | 四十四 | 秋蟬 | 四十四 | 秋蟬 | 四十四 | 秋蟬 | 四十四 |
| 秋蚊 | 四十四 | 秋蚊 | 四十四 | 秋蚊 | 四十四 | 秋蚊 | 四十四 |
| 蜻蛉 | 四十五 | 蜻蛉 | 四十五 | 蜻蛉 | 四十五 | 蜻蛉 | 四十五 |
| 蜻蛉 | 四十六 | 蜻蛉 | 四十六 | 蜻蛉 | 四十六 | 蜻蛉 | 四十六 |
| 蜻蛉 | 四十七 | 蜻蛉 | 四十七 | 蜻蛉 | 四十七 | 蜻蛉 | 四十七 |
| 蜻蛉 | 四十八 | 蜻蛉 | 四十八 | 蜻蛉 | 四十八 | 蜻蛉 | 四十八 |

| | | | |
|-------|----------|-----------|-----------------|
| 卷之新目錄 | 行狀
五十 | 朗詠
五十一 | 四十九
九月
辛丑 |
|-------|----------|-----------|-----------------|

降物之類

| | | |
|-----|-----|-------|
| 霜 | 初時為 | 初雪 |
| 六 | 四 | 一 |
| 七 | 五 | 二 |
| 八 | 六 | 三 |
| 九 | 七 | 四 |
| 十 | 八 | 五 |
| 十一 | 九 | 六 |
| 十二 | 十 | 七 |
| 十三 | 十一 | 八 |
| 十四 | 十二 | 九 |
| 十五 | 十三 | 十 |
| 十六 | 十四 | 十一 |
| 十七 | 十五 | 十二 |
| 十八 | 十六 | 十三 |
| 十九 | 十七 | 十四 |
| 二十 | 十八 | 十五 |
| 二十一 | 十九 | 十六 |
| 二十二 | 二十 | 十七 |
| 二十三 | 二十一 | 十八 |
| 二十四 | 二十二 | 十九 |
| 二十五 | 二十三 | 二十 |
| 二十六 | 二十四 | 二十一 |
| 二十七 | 二十五 | 二十二 |
| 二十八 | 二十六 | 二十三 |
| 二十九 | 二十七 | 二十四 |
| 三十 | 二十八 | 二十五 |
| 三十一 | 二十九 | 二十六 |
| 三十二 | 三十 | 二十七 |
| 三十三 | 三十一 | 二十八 |
| 三十四 | 三十二 | 二十九 |
| 三十五 | 三十三 | 三十 |
| 三十六 | 三十四 | 三十一 |
| 三十七 | 三十五 | 三十二 |
| 三十八 | 三十六 | 三十三 |
| 三十九 | 三十七 | 三十四 |
| 四十 | 三十八 | 三十五 |
| 四十一 | 三十九 | 三十六 |
| 四十二 | 四十 | 三十七 |
| 四十三 | 四十一 | 三十八 |
| 四十四 | 四十二 | 三十九 |
| 四十五 | 四十三 | 四十 |
| 四十六 | 四十四 | 四十一 |
| 四十七 | 四十五 | 四十二 |
| 四十八 | 四十六 | 四十三 |
| 四十九 | 四十七 | 四十四 |
| 五十 | 四十八 | 四十五 |
| 五十一 | 四十九 | 四十六 |
| 五十二 | 五十 | 四十七 |
| 五十三 | 五十一 | 四十八 |
| 五十四 | 五十二 | 四十九 |
| 五十五 | 五十三 | 五十 |
| 五十六 | 五十四 | 五十一 |
| 五十七 | 五十五 | 五十二 |
| 五十八 | 五十六 | 五十三 |
| 五十九 | 五十七 | 五十四 |
| 六十 | 五十八 | 五十五 |
| 六十一 | 五十九 | 五十六 |
| 六十二 | 六十 | 五十七 |
| 六十三 | 六十一 | 五十八 |
| 六十四 | 六十二 | 五十九 |
| 六十五 | 六十三 | 六十 |
| 六十六 | 六十四 | 六十一 |
| 六十七 | 六十五 | 六十二 |
| 六十八 | 六十六 | 六十三 |
| 六十九 | 六十七 | 六十四 |
| 七十 | 六十八 | 六十五 |
| 七十一 | 六十九 | 六十六 |
| 七十二 | 七十 | 六十七 |
| 七十三 | 七十一 | 六十八 |
| 七十四 | 七十二 | 六十九 |
| 七十五 | 七十三 | 七十 |
| 七十六 | 七十四 | 七十一 |
| 七十七 | 七十五 | 七十二 |
| 七十八 | 七十六 | 七十三 |
| 七十九 | 七十七 | 七十四 |
| 八十 | 七十八 | 七十五 |
| 八十一 | 七十九 | 七十六 |
| 八十二 | 八十 | 七十七 |
| 八十三 | 八十一 | 七十八 |
| 八十四 | 八十二 | 七十九 |
| 八十五 | 八十三 | 八十 |
| 八十六 | 八十四 | 八十一 |
| 八十七 | 八十五 | 八十二 |
| 八十八 | 八十六 | 八十三 |
| 八十九 | 八十七 | 八十四 |
| 九十 | 八十八 | 八十五 |
| 九十一 | 八十九 | 八十六 |
| 九十二 | 九十 | 八十七 |
| 九十三 | 九十一 | 八十八 |
| 九十四 | 九十二 | 八十九 |
| 九十五 | 九十三 | 九十 |
| 九十六 | 九十四 | 九十一 |
| 九十七 | 九十五 | 九十二 |
| 九十八 | 九十六 | 九十三 |
| 九十九 | 九十七 | 九十四 |
| 一百 | 九十八 | 九十五 |
| 一百一 | 九十九 | 九十六 |
| 一百二 | 一百 | 九十七 |
| 一百三 | 一百一 | 九十八 |
| 一百四 | 一百二 | 九十九 |
| 一百五 | 一百三 | 一百 |
| 一百六 | 一百四 | 一百一 |
| 一百七 | 一百五 | 一百二 |
| 一百八 | 一百六 | 一百三 |
| 一百九 | 一百七 | 一百四 |
| 二百 | 一百八 | 一百五 |
| 二百一 | 一百九 | 一百六 |
| 二百二 | 二百 | 一百七 |
| 二百三 | 二百一 | 一百八 |
| 二百四 | 二百二 | 一百九 |
| 二百五 | 二百三 | 二百 |
| 二百六 | 二百四 | 二百一 |
| 二百七 | 二百五 | 二百二 |
| 二百八 | 二百六 | 二百三 |
| 二百九 | 二百七 | 二百四 |
| 三百 | 二百八 | 二百五 |
| 三百一 | 二百九 | 二百六 |
| 三百二 | 三百 | 二百七 |
| 三百三 | 三百一 | 二百八 |
| 三百四 | 三百二 | 二百九 |
| 三百五 | 三百三 | 三百 |
| 三百六 | 三百四 | 三百一 |
| 三百七 | 三百五 | 三百二 |
| 三百八 | 三百六 | 三百三 |
| 三百九 | 三百七 | 三百四 |
| 四百 | 三百八 | 三百五 |
| 四百一 | 三百九 | 三百六 |
| 四百二 | 四百 | 三百七 |
| 四百三 | 四百一 | 三百八 |
| 四百四 | 四百二 | 三百九 |
| 四百五 | 四百三 | 四百 |
| 四百六 | 四百四 | 四百一 |
| 四百七 | 四百五 | 四百二 |
| 四百八 | 四百六 | 四百三 |
| 四百九 | 四百七 | 四百四 |
| 五百 | 四百八 | 四百五</ |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 十月 | 八 | 小正月 | 八 | 小春 | 九 | 霜月 | 九 |
| 十月 | 无 | 初冬 | 十 | 冬月 | 十 | 祁送 | 十 |
| 十一月 | 十一 | 夷凉 | 十二 | 子将心 | 十一 | 吹草祭 | 十二 |
| 十二月 | 十二 | 里祁乐 | 十一 | 冰玄城 | 十二 | 十秋 | 十三 |

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 山金藤 | 十二 | 芭蕉忌 | 十二 | 山金藤 | 十二 | 連平忌 | 十三 |
| 新叶 | 十三 | 芭蕉佛 | 十三 | 大河藤 | 十三 | | |

植物部

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|
| 落葉 | 十四 | 木の葉 | 十四 | 冬木立 | 十五 | 木 | 十五 |
| 枯柳 | 十六 | 黄不葉 | 十六 | 歸也 | 十六 | 枇杷也 | 十七 |
| 山原也 | 十七 | ハツキ | 十七 | 冬梅 | 十七 | 冬梅 | 十八 |
| 冬牡丹 | 十八 | 水仙 | 十八 | 寒梅 | 十九 | 松也也 | 十九 |
| 松芭 | 十九 | 茶也也 | 十九 | 冬葉 | 二十 | 石松也 | 二十 |
| 枯蓮 | 廿一 | 松芽 | 廿一 | 冬枯 | 廿一 | 竹枯 | 廿一 |
| 松葉 | 廿二 | 枯花 | 廿二 | 冬如山 | 廿二 | 大松也 | 廿三 |
| 干菜 | 廿三 | 葱 | 廿三 | 麦苗 | 廿三 | | |

植物部

| | | | | | | | |
|-----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 冬の石 | 廿五 | 小鴨 | 廿六 | 冬 | 廿六 | 浮草也 | 廿七 |
| 冬の石 | 廿七 | 木兔 | 廿七 | 冬 | 廿七 | 冬 | 廿七 |
| 冬の石 | 廿七 | 暖房 | 廿八 | 冬 | 廿八 | 松葉也 | 廿八 |
| 冬の石 | 廿八 | 餘寒 | 廿八 | 細代也 | 廿八 | 羅 | 廿九 |
| 生海流 | 廿九 | 蟬 | 廿九 | 海流 | 廿九 | あんこ | 三十 |
| 冬 | 三十 | 菜喰 | 三十 | | | | |

時節部

三十冬終

| | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 冬 | 卅一 | 冬 | 卅一 | 冬 | 卅一 | 冬 | 卅一 |
| 冬 | 卅二 | 冬 | 卅二 | 冬 | 卅二 | 冬 | 卅二 |
| 冬 | 卅三 | 冬 | 卅三 | 冬 | 卅三 | 冬 | 卅三 |
| 冬 | 卅四 | 冬 | 卅四 | 冬 | 卅四 | 冬 | 卅四 |
| 冬 | 卅五 | 冬 | 卅五 | 冬 | 卅五 | 冬 | 卅五 |

目四

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 部人七 | 廿五 | 部人七 | 廿五 | 部人七 | 廿五 | 部人七 | 廿五 |
| 部人七 | 廿五 | 部人七 | 廿六 | 部人七 | 廿六 | 部人七 | 廿六 |
| 部人七 | 廿六 | 部人七 | 廿七 | 部人七 | 廿七 | 部人七 | 廿七 |
| 部人七 | 廿八 | 部人七 | 廿八 | 部人七 | 廿九 | 部人七 | 廿九 |
| 部人七 | 廿九 | 部人七 | 廿九 | 部人七 | 四十 | 部人七 | 四十 |
| 部人七 | 四十 | 部人七 | 四十 | 部人七 | 四十 | 部人七 | 四十 |
| 部人七 | 四十 | 部人七 | 四十一 | 部人七 | 四十一 | 部人七 | 四十二 |
| 部人七 | 四十二 | 部人七 | 四十二 | 部人七 | 四十二 | 部人七 | 四十三 |
| 部人七 | 四十三 | 部人七 | 四十三 | 部人七 | 四十三 | 部人七 | 四十三 |
| 部人七 | 四十三 | 部人七 | 四十四 | 部人七 | 四十四 | 部人七 | 四十四 |
| 部人七 | 四十四 | 部人七 | 四十四 | 部人七 | 四十四 | 部人七 | 四十四 |

月名

秋之部

壁為山蜀

知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...

小南...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...
 知月平...

白

秋三

一
嶼
碧
峒
爲
嶺
案
經
至
其
委
范
荒
荒
由
此
云

後沙月

[The page contains faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side.]

陽
如
依
遠
素
固
枝
天
江
所
北
靜
外
知

[The page contains several lines of handwritten text, which appears to be bleed-through from the reverse side of the document. The handwriting is cursive and difficult to decipher.]

溪山外家良相聖心川下

竜
四
非

高くとせぬおきる中居の月
落つてぬりぬを龍の龍田非
續の者も本居れぬ多龍田非

今地
泰田
万古

文
月

文月やも空を掃く龍のつ
文つたやもけり龍の雲
文月やも空を掃く龍のつ
文月やも空を掃く龍のつ
文月やも空を掃く龍のつ
文月やも空を掃く龍のつ
文月やも空を掃く龍のつ

乃
小
友
南
欲
我

葉
月

長
月

八月や月を伐きし時より
八月や月の光るる時より
八月の月も輝く中居の月
八月やも空を掃く龍のつ
八月の月も輝く中居の月
八月の月も輝く中居の月
八月の月も輝く中居の月

有
心
其
山
南
枝
南
枝
大
略

秋野は故にりぬ 九月は
思ふやも月を伐きし時より

千
竹
標
由

明

寵

燈籠やひるを照し、人通り
をふくむとて増え、燈籠外
の光のぼろりたる。燈籠
のうけ定まり、二枚の板
は、おそく門よりあつた。燈籠
のうけ定まり、二枚の板
は、おそく門よりあつた。燈籠
のうけ定まり、二枚の板
は、おそく門よりあつた。

素心大雅
雅性素心
素心雅性
雅性素心

以 切

高

少堂

以就

金をうけ 金を用ひて 燈籠
 いかのききと申すや 多う 燈籠
 燈籠のききと申すや 多う 燈籠

幻覺梅
外一室

為双和
山

于蘭盆

とも 一は後で。もう娘を養ひては
 淑子の名も消はる。冬病、二冬申
 同は兄え娘はもうさう。冬病を
 祝うといふ。冬病、一冬病、二冬病

北 乙 一
松 叔 良 秀

攝

待

智れやとけはあけぬと寝入
千葉巻や生もはくや休まらぬ

若山
為山

掬の曲宴の樽や掬ま
掬は千巻を初化の古佛

兄以
逆源

源

海もなほ深きやうと久門居か
日々掬を舐めしうとさうと源

和光
大鵬

迎

火

迎火のうけは露や掬うと
むくひ火のあけんとつる小川が

百丈
恒葉

送

送火のうけは露や掬うと
掬を舐めしうとさうと源

仙臺
柳由

草

草人うと掬うとあけぬと
あけぬとあけぬとあけぬと

惟子
在向

草人うと掬うとあけぬと
あけぬとあけぬとあけぬと

秋之
青天

魂

祭

魂のあけぬとあけぬとあけぬと
あけぬとあけぬとあけぬと

魯心
以法
標由
確哉

月夜——秋の夜——月夜

一

玉桐

玉桐の馬の月夜、灯先が
たす桐や、夜の月夜、秋の月

幻外
吳城

多子

多子は、夜の月夜、秋の月
桐の夜、夜の月夜、秋の月

丹化
原

墓

墓、夜の月夜、秋の月
見、夜の月夜、秋の月

秋水
秋

身魂

身魂、夜の月夜、秋の月
見、夜の月夜、秋の月

聴松
秋

盆

盆、夜の月夜、秋の月
見、夜の月夜、秋の月

秋
外
興
府
多

踊

痛も成る人遠きを
すまふをさるる声ふり小ふり
こゝろもさるる心おのけ踊られ
痛の中へさるるけさるる
をさるる中人の踊をさるる
ひささるるさるる月夜をさるる
さるるさるるさるるさるる
がさるるさるるさるるさるる
をさるるさるるさるるさるる
踊るをさるるさるるさるる
笑人のさるるさるるさるる

為山 豆 糸 經 松 萱 南 松 大 不 松 為
山 糸 丸 什 居 枝 鵬 水 池 山

瓜 世

花 火

あささるるはさるるさるるさるる
つらさるるさるるさるるさるる
川さるるさるるさるるさるる
今のさるるさるるさるるさるる
豆引さるるさるるさるるさるる
月のさるるさるるさるるさるる
細紙さるるさるるさるるさるる

為山 一 生 如 柳 秀 抱
山 糸 糸 花 儀
山 糸 丸 什 居 枝 鵬 水 池 山

河津生草の先づ人を秋の風
吹れを振る程や明か月
沈き一ふのさす秋の風
簾紙の中を流す秋の風
一ふの簾もさるさう秋の風
秋風のさすやうに秋の風
實をさすさうに秋の風
敗る菊紙のさす秋の風
立雲のさす秋の風
さすさうに秋の風
さすさうに秋の風
さすさうに秋の風

一
原
静
成
波
永
魯
有
青
夜
如
荷
少

扇

秋
懨

嵐 初

人さすさうに秋の風
楓をさすさうに秋の風
樹をさすさうに秋の風
庭のさすさうに秋の風
やむさうに秋の風
吟詠を代さすさうに秋の風

松
豊

青
松
令
曜

河
波
定
新
山
之
外

五

藤穂

藤子列々難も松も無落穂は
持たへて之を投じおち不

其山
遠瀬

木綿取

あゝとて木綿をうかす物。和
夕風や綿の袖や袖つゝ来
新綿や木綿をうかす物。和
志ん綿は戸に掛る物。和

夫則
春因
石丈
春遊

綿垣をうかす物。和
晴きうもさぬ綿干戸に
綿刈の家一まゝの軒の南
綿刈の家一まゝの軒の南

枝月尼
理玉女
夫而
金地

田刈

綿干の向ふける稲う南
のけ稲や木綿をうかす物。和
魚ののけ稲や木綿をうかす物。和
立木も掛るや綿の刈は
綿干の向ふける稲う南

外
孤
弄
化
注
節
山

曳豆

豆のうかす物。和
川流や木綿をうかす物。和

子
丁
知

初汐

汐のうかす物。和
初汐や木綿をうかす物。和

初
白

もつしの引てやゆらん僕も
初しも成てんは月夜か
まのしの暇さるるや等ひと

初言
再化

ハ朝やお後のちか細
ハ朝やあらうとさるる
ハ朝やきりまかけの
ハ朝や竹の蔭に田う

連山
未無
仙壺
尺苔

駒

駒曳の物体朝やる
駒ひきや心のかも馬
駒ひきや心のかも馬

惟
石
山

宮近佛

佛を朝あひて
佛を朝あひて
佛を朝あひて

惟
松
寺

鳴子

鳴子とさるる
鳴子とさるる
鳴子とさるる

惟
乙
良
所

沙魚

沙魚のふききりなちういさ
魚物の誘引金と魚の産さ

在兔
今復

或弱

解引中平入腹の朱より成
赤く仲の合中より成

為江山

外市

中元節
苗杞在
中元節
苗杞在

尤桡
美叟

新

蕭麥

新をなす人多し出づるは
新ははなより早くふと見ゆ

弄化秋香

石占

本邦もよふ家や砦のうわさしめ
 諸國名の明るき傳ふ砦う南
 砦うつ却ゝあのみや者むり
 うわ出せとて骨を遠く置砦
 砦うんを都えそよくに
 寐するれゝあの出る砦外
 山風は寒く少言を思ひこふ
 道を行くけきもなき砦うれ
 大家と知る事なくうの砦
 危きの面はさうさうとあり外

[illegible]

暮秋

秋望

夕陽紅似火，
雁字橫天北。
木葉落紛紛，
寒風吹瑟瑟。
遠上寒山石，
蒼苔沒行跡。
林深不知處，
山色有无中。
但使願無違，
何患樂未終。
且看欲盡花，
不減去年紅。

夕陽紅似火，
雁字橫天北。
木葉落紛紛，
寒風吹瑟瑟。
遠上寒山石，
蒼苔沒行跡。
林深不知處，
山色有无中。
但使願無違，
何患樂未終。
且看欲盡花，
不減去年紅。

新酒
和

美酒不可無，
佳客不可少。
三杯通大道，
一醉即成仙。
且看欲盡花，
不減去年紅。
夕陽紅似火，
雁字橫天北。
木葉落紛紛，
寒風吹瑟瑟。
遠上寒山石，
蒼苔沒行跡。
林深不知處，
山色有无中。
但使願無違，
何患樂未終。
且看欲盡花，
不減去年紅。

美酒不可無，
佳客不可少。
三杯通大道，
一醉即成仙。
且看欲盡花，
不減去年紅。
夕陽紅似火，
雁字橫天北。
木葉落紛紛，
寒風吹瑟瑟。
遠上寒山石，
蒼苔沒行跡。
林深不知處，
山色有无中。
但使願無違，
何患樂未終。
且看欲盡花，
不減去年紅。

露時雨

秋のるめくもあふ木能るか
坂よりや露も戸より秋のる
白きよりきり記戸より秋のる
秋のるあふりあふり秋のる
ゆきよりや露もたふ秋のる
あふりあふりあふりあふり
ゆきよりや露もたふ秋のる
あふりあふりあふりあふり
ゆきよりや露もたふ秋のる

残高
山谷
主子
可年
可大
在池
大野
芦宮
芦宮
漢史

桐一葉

桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり
桐の葉もあふりあふり

一止
水谷
漢史
漢史
漢史
漢史
漢史
漢史
漢史
漢史

秋廿九

24

1. The first part of the document is a list of names and addresses, which are written in a cursive script. The names are: "John Smith", "Jane Doe", "Robert Johnson", "Mary White", "Thomas Brown", "Elizabeth Black", "James Green", "Sarah Lee", "William Hall", "Anna King", "George Taylor", "Margaret Wilson", "Charles Moore", "Elizabeth Clark", "John Adams", "Mary Baker", "Thomas Evans", "Sarah Foster", "William Gibson", "Anna Hall", "George Hunt", "Margaret Jones", "Charles King", "Elizabeth Lane", "John Miller", "Mary Nelson", "Thomas Oliver", "Sarah Parker", "William Reed", "Anna Scott", "George Turner", "Margaret Walker", "Charles Young", "Elizabeth Zane".

家以奉經之凡指按此
並雲峰先生題

不 知 其 名

世昭

(The text in this image is mirrored bleed-through from the reverse side of the page and is therefore illegible.)

丁巳年
 知山
 義山
 羽山
 新影
 月照
 照新
 鋼網

木権

ふりうる馬鞍の中や那を
知れぬおのるもふりぬを
掃らるる木権をうけし海より
板垣の中よりやあらぬけ
にのとりおさるるおの木権を
あらうる木権やおのぬれを
言わぬの言よりなる木権を
おのるも懺のふりぬ木権を
言ふて下るるぬれぬ木権を

お外 聴お 外 鼠 青 映 廣 治 由 吉 美

葛花

お根ゆきうる人さるる葛の花

木 花

鼠尾

おろるる鼠尾を掃く 始のる
うるる鼠尾を掃く 始のる
鼠尾をのるる鼠尾をのる

素 明 双 茶 部

藤袴

おろるる藤袴を掃く 始のる
おろるる藤袴を掃く 始のる
藤袴をのるる藤袴をのる

標 由 弄 化

朝魚

おろるる朝魚を掃く 始のる
おろるる朝魚を掃く 始のる
朝魚をのるる朝魚をのる

標 朗 並 屋

秋

1. The first part of the paper discusses the importance of maintaining accurate records of all transactions.
 2. It also covers the various methods used to collect and analyze data.
 3. The second part of the paper describes the different types of errors that can occur during data collection.
 4. Finally, it provides some suggestions for how to minimize these errors.

[Faint, illegible handwriting]

張眉小
山石柯
為水扁
山竹白
秀一
腰一
葉一

焚

The above is a list of the names of the
 persons who have been appointed to the
 various committees of the Board of
 Directors of the City of New York
 for the year 1890.

The new tower from the top of
 the old one.

卷一
惟志
不疏
大
之
如
之
時

此先一箇の字や
 時時や其の字の

紅暎
外落

勤 孝 忠

あゝ先の穴新嘉坡をそののち
そこのお山のたてを月、まゝに
所門の海をまゝやそののち
家々を畑の家々や、こゝ新嘉

文大子連
林猷遜

花福

編のむやわつたてりな
 へんえんたてりな
 ぬのむやわつたてりな

月松齋
卷之四

〔張の唐〕

[illegible]

丁巳年
萬曆
庚子
乙巳
知地
由知
月知
竹知

瓢瓜 瓜系

振子

为和
山外

節言々ありぬあぬの老ふれ
ぬすもねこあふかのさけあぬが
まのたのさふらふるあぬが

張子
家

つゝも、
 権を
 一
 月

葵樓望嶺
之由村路

あめつちのこころ

以
董

蘭

西子盤龍多紫姑
石龍多和月兒
高之入夢
dim

系部
音人

蕉芭

雲の灯の中へと湧き出で
 面映る 葉は落し 花をさす
 春のすうら 花のさける 花のさける
 花のさける 花のさける 花のさける

笠翁松雪
村吟卷前

陽春集卷之四

二系

花野

つゝふと夕の影をいりて花野に
出づるも花の香をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
申すも花の影をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
入るも花の影をいりて花野に

花野
花野
花野
花野
花野
花野

桔梗

つゝふと夕の影をいりて花野に
出づるも花の香をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
申すも花の影をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
入るも花の影をいりて花野に

花野
花野
花野
花野
花野
花野

花

つゝふと夕の影をいりて花野に
出づるも花の香をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
申すも花の影をいりて花野に
ありて花の影をいりて花野に
入るも花の影をいりて花野に

花野
花野
花野
花野
花野
花野

尾花

新のうす中花は霞のきりぎりす
是れは花のうす中花は霞のきりぎりす
是れは花のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

志

切あはれきりぎりす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

聖

鬼灯

新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

新

新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

葉

新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

仙

新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす
新のうす中花は霞のきりぎりす

山
花
花
花

卷五

At

34

花堂

104

白雲

新嘉坡の海軍と海軍の発展

此の二書は、
 徳川幕府の

1. The first part of the document is a letter from the President of the United States to the Congress, dated January 8, 1790. It contains the following text: "I have the honor to acknowledge the receipt of your letter of the 6th inst. and in reply to inform you that the same has been forwarded to the proper authorities for their consideration."

此後の如く

[Handwritten signature]

張其成

$\frac{1}{2}$ a la base $\sim \frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2}$

此乃... (faint handwritten text)

Handwritten notes at the bottom of the page:

Handwritten text (likely bleed-through or additional notes):

Handwritten text (likely bleed-through or additional notes):

...the ...

... 木...

2000年10月

幻說
對南

江樓集

北窗書

小雅

一
草
書

粮元

一、五、

秋

張

卷

福

卷之

木犀

木犀の香は木犀の香もそのれり
木犀の香は木犀の香もそのれり
木犀の香は木犀の香もそのれり

千竹
一竹

木

木

木の香は木の香もそのれり
木の香は木の香もそのれり
木の香は木の香もそのれり

由藤
一竹
大勝

推

草

木

木の香は木の香もそのれり
木の香は木の香もそのれり
木の香は木の香もそのれり

千竹
大勝

素明
一竹

文叔
一竹

李隆
一竹

秋
牧

落つねをいさる 杖の小枝分
分の上枝杖も ありすしをいさる

一孤
空嶂

杯の酔ふゝゝゝ即ち書を抄めり
 子と母のくゝゝゝゝゝゝゝゝ

嘉禾

生を造りしつゝもあそびの
うきうきとあそびしつゝの
いかにあそびしつゝの

文如臨
卷外波

秋
蠅

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

永泰

青 吟

燈台の向はるる情状、うね
 情状の申さるる情、うね
 とんねんねんねんねん、うね
 うね、うねのうね、うね
 灯台の夕日を、うね情状、うね
 情状の戸壁、うね、うねのうね
 情状を、うね、うね、うね
 情状、うね、うね、うね
 うね、うね、うね、うね

大鵬

編
花

何れをさう 花中のり 編花
う夜 花をさう 花をさう 編花

云子
縁崎

調

烟のさうさう 花をさう 編花
烟の中 花をさう 花をさう 編花
ひささう 花をさう 花をさう 編花
ひささう 花をさう 花をさう 編花

双柳
水柳
山柳

つる

ふさふさ 花をさう 花をさう 編花
ひささう 花をさう 花をさう 編花
ひささう 花をさう 花をさう 編花

大柳
水柳
山柳

編

あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花
あうあう 花をさう 花をさう 編花

月波
青柳
白柳
秋柳
外柳
山柳

木鳥

さほちの嘴よりたうねの音
たうねや木葉を落す羽の音
さうねの本葉一面の夕の光

鳥 鳴
木 葉
鳴 成 由 吟

鴉

啼きけりさうねの音
夕の光をさうねの音

乙 良
竹 桐

鴟

おのゝ影をさうねの音
おのゝ影をさうねの音
遠くをさうねの音
おのゝ影をさうねの音

鴟 鳴
おのゝ 影
鳴 成 由 吟

鴟

おのゝ影をさうねの音
おのゝ影をさうねの音

鴟 鳴
おのゝ 影
鳴 成 由 吟

鴟

おのゝ影をさうねの音
おのゝ影をさうねの音

鴟 鳴
おのゝ 影
鳴 成 由 吟

鴟

おのゝ影をさうねの音
おのゝ影をさうねの音

鴟 鳴
おのゝ 影
鳴 成 由 吟

鹿

おのゝ影をさうねの音
おのゝ影をさうねの音

鹿 鳴
おのゝ 影
鳴 成 由 吟

U 纒のゆるぎな水に外

朗族之部

The power of the mind is not
 to be measured by the number of
 words it can utter, but by the
 quality of the thoughts it can
 express.

為 木 杞 木 木 琴 油 杞 木 山

The first thing I saw
 was two big trees at the end
 of the road. They were very
 old and had many holes in
 their bark. The leaves were
 green and shiny. I went
 up to them and looked at
 them closely. They were so
 tall and straight. I could
 see the top of one tree from
 the other. They were like
 sentinels standing guard over
 the road. I felt very small
 next to them. I took a picture
 of them and then walked
 down the road. The road was
 made of dirt and was very
 dusty. There were no cars or
 people on the road. It was
 very quiet. I heard the sound
 of birds in the trees and the
 sound of water flowing in a
 stream. The stream was very
 clear and the water was cold.
 I drank some water and then
 continued my journey. The
 road led me through a beautiful
 landscape. There were mountains
 in the distance and hills all
 around me. The sky was blue
 and there were white clouds.
 I felt like I was in a dream.
 I took many pictures and
 collected some plants and
 animals. I was having a great
 time. I didn't know where
 the road would lead me. But
 I knew it was worth going.
 I kept walking until I found
 a small village. The village
 was very nice. There were
 many houses and people. The
 people were friendly and
 they showed me where to go.
 I stayed in a small hut and
 ate some food. The food was
 delicious. I slept well and
 woke up early the next day.
 I started my journey again.
 The road was still there and
 I was ready to go. I took
 my camera and my bag and
 walked down the road. The
 road was longer than before
 and it was more difficult to
 walk. But I was determined
 to finish it. I walked for
 hours and finally reached the
 end of the road. I was tired
 but happy. I had completed
 my journey. I took a picture
 of the end of the road and
 then returned home. I showed
 my friends and family the
 pictures and they were amazed.
 I had done something amazing.
 I had explored a new world.
 I was proud of myself. I
 loved every minute of it. I
 will never forget this journey.
 It was the best trip I have
 ever taken. I hope to go back
 soon. I want to explore more
 of this beautiful world. I
 want to see all the things
 that are out there. I want
 to experience everything. I
 want to live life to the fullest.
 This journey has shown me
 that I am capable of doing
 anything. I am strong and
 brave. I can overcome any
 challenge. I can achieve my
 dreams. I can make a difference.
 I can change the world. I
 can be a hero. I can be a
 leader. I can be a role model.
 I can be anyone I want to
 be. I can be the person I
 always wanted to be. I can
 be the person who makes
 a difference. I can be the
 person who changes the world.
 I can be the person who
 saves lives. I can be the
 person who brings peace.
 I can be the person who
 creates a better future. I can
 be the person who makes
 the world a better place.
 I can be the person who
 inspires others. I can be the
 person who leads by example.
 I can be the person who
 shows others what is possible.
 I can be the person who
 proves that anything is
 possible. I can be the person
 who shows others that they
 can do it too. I can be the
 person who shows others that
 they are capable of achieving
 their dreams. I can be the
 person who shows others that
 they are worthy of love and
 respect. I can be the person
 who shows others that they
 are valuable. I can be the
 person who shows others that
 they are important. I can be
 the person who shows others
 that they are unique. I can
 be the person who shows
 others that they are special.
 I can be the person who
 shows others that they are
 beautiful. I can be the person
 who shows others that they
 are smart. I can be the person
 who shows others that they
 are kind. I can be the person
 who shows others that they
 are honest. I can be the person
 who shows others that they
 are brave. I can be the person
 who shows others that they
 are strong. I can be the person
 who shows others that they
 are resilient. I can be the person
 who shows others that they
 are determined. I can be the
 person who shows others that
 they are focused. I can be the
 person who shows others that
 they are disciplined. I can be
 the person who shows others
 that they are responsible. I can
 be the person who shows others
 that they are reliable. I can be
 the person who shows others
 that they are trustworthy. I can
 be the person who shows others
 that they are loyal. I can be
 the person who shows others
 that they are committed. I can
 be the person who shows others
 that they are dedicated. I can
 be the person who shows others
 that they are passionate. I can
 be the person who shows others
 that they are enthusiastic. I can
 be the person who shows others
 that they are optimistic. I can
 be the person who shows others
 that they are positive. I can be
 the person who shows others
 that they are confident. I can
 be the person who shows others
 that they are self-assured. I can
 be the person who shows others
 that they are self-reliant. I can
 be the person who shows others
 that they are independent. I can
 be the person who shows others
 that they are free. I can be the
 person who shows others that
 they are happy. I can be the
 person who shows others that
 they are healthy. I can be the
 person who shows others that
 they are wealthy. I can be the
 person who shows others that
 they are successful. I can be the
 person who shows others that
 they are powerful. I can be the
 person who shows others that
 they are influential. I can be
 the person who shows others
 that they are respected. I can
 be the person who shows others
 that they are admired. I can be
 the person who shows others
 that they are loved. I can be
 the person who shows others
 that they are valued. I can be
 the person who shows others
 that they are appreciated. I can
 be the person who shows others
 that they are honored. I can be
 the person who shows others
 that they are revered. I can be
 the person who shows others
 that they are worshipped. I can
 be the person who shows others
 that they are idolized. I can be
 the person who shows others
 that they are legendary. I can
 be the person who shows others
 that they are immortal. I can
 be the person who shows others
 that they are eternal. I can be
 the person who shows others
 that they are timeless. I can be
 the person who shows others
 that they are infinite. I can be
 the person who shows others
 that they are boundless. I can
 be the person who shows others
 that they are limitless. I can be
 the person who shows others
 that they are endless. I can be
 the person who shows others
 that they are unending. I can
 be the person who shows others
 that they are everlasting. I can
 be the person who shows others
 that they are forever. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally yours.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 loved. I can be the person who
 shows others that they are
 eternally cherished. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally treasured.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 protected. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally safe. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally secure. I can
 be the person who shows others
 that they are eternally sound.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 solid. I can be the person who
 shows others that they are
 eternally sturdy. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally strong. I can
 be the person who shows others
 that they are eternally robust.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 vigorous. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally active. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally energetic.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 lively. I can be the person who
 shows others that they are
 eternally cheerful. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally joyful. I can
 be the person who shows others
 that they are eternally happy.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 content. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally satisfied. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally pleased.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 delighted. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally ecstatic. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally thrilled.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 amazed. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally astonished. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally surprised.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 shocked. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally stunned. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally dumbfounded.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 flabbergasted. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally speechless.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 breathless. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally awe-struck. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally wonder-
 struck. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally mesmerized. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally hypnotized.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 entranced. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally fascinated. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally captivated.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 enchanted. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally spellbound. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally bewitched.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 charmed. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally enchanted. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally dazzled.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 astounded. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally staggered. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally dumfounded.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 flummoxed. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally befuddled. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally confused.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 puzzled. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally perplexed. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally bewildered.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 mystified. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally stumped. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally stuck.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 lost. I can be the person who
 shows others that they are
 eternally迷途. I can be the
 person who shows others that
 they are eternally不知所措. I
 can be the person who shows
 others that they are eternally
 茫然. I can be the person who
 shows others that they are
 eternally不知所措. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally不知所措.
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 不知所措. I can be the person
 who shows others that they are
 eternally不知所措. I can be
 the person who shows others
 that they are eternally不知所措。
 I can be the person who shows
 others that they are eternally
 不知所措。I can be the person
 who shows others that they are

丁巳年九月三日

雪初

雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め

雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め

雪の都 満屋為山輯

雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め

雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め
 雪初平松の枝葉を白く染め

雪

雪のやまのうへにけり
初雪の初雪のうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり

雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり

雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり
雪のやまのうへにけり

初外
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮

初外
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮

初外
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮
雪亮

神樂

あけふは冬（あけふは）神樂
あけふは冬（あけふは）神樂
あけふは冬（あけふは）神樂

丁知
石合

里神樂

あけふは冬（あけふは）里神樂
あけふは冬（あけふは）里神樂
あけふは冬（あけふは）里神樂

あけふは
あけふは
あけふは

十夜

あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜

あけふは
あけふは
あけふは

十夜

あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜
あけふは冬（あけふは）十夜

あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは
あけふは

所命

儀

方の人をうけつる如く此の儀
表物も年々く残る所なき儀
此命儀や今をうけつるの儀の如

思文
所命
南枝

芭

忘

いと此の芭蕉の月夜忘の如
く残る所なき儀
此命儀や今をうけつるの儀の如
く残る所なき儀

芭蕉
忘
一
乃

芭

此命儀や今をうけつるの儀の如

乃

忘

此命儀や今をうけつるの儀の如
く残る所なき儀
此命儀や今をうけつるの儀の如
く残る所なき儀

芭蕉
忘
乃

芭

此命儀や今をうけつるの儀の如
く残る所なき儀
此命儀や今をうけつるの儀の如
く残る所なき儀

芭蕉
忘
乃

紫の木

紫木は木を紫に染める木のこと
通名を紫木と云ふも紫木は
下道に云ふ人知れぬ木は
あるまじきこと多くの紫木は
紫木と云ふ極上の木や木相

海老
萬古
紫木
大木
木

紫木は木を紫に染める木のこと
體木の中は紫木は木のこと
紫木は木を紫に染める木のこと
おちし木は木のこと紫木の水
掃き木は木を紫に染める木のこと

紫木
木
木
木
木
木

冬木

風

冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと

冬木
木
木
木
木
木

冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと

冬木
木
木
木
木
木

冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと
冬木は木を冬に染める木のこと

冬木
木
木
木
木
木

冬 抄

春 冬

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄
冬 抄

冬 抄

冬 抄

冬 抄

冬 抄

冬 抄

冬 抄

枯梅

味の茶

梅の葉は、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

思文

之

池

乃

波

南

波

文

知

金

外

久

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

梅の葉より、梅の花より、

梅の花より、梅の葉より、

一

大

一

山

松

之

井

里

松

外

卷之六

2000
 2000

[illegible]

Handwritten notes in cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

杭州

一者木也

20 23 24 25
 26 27 28 29

不露戈

[illegible]

南水
北水
東水
西水
中水
外水

冬の
山

松の葉も少し枯れゆく冬は松の
葉の人の心をさす松の葉の
葉の心は馬の心は松の心は
あつたまゝ生えて山系は松の
心は生えて松の心は生えて

其山
波同
丸親
為山

松の葉も少し枯れゆく冬は松の
葉の人の心をさす松の葉の
葉の心は馬の心は松の心は
あつたまゝ生えて山系は松の
心は生えて松の心は生えて

一山
松由
石

大相電

松の葉も少し枯れゆく冬は松の
葉の人の心をさす松の葉の
葉の心は馬の心は松の心は
あつたまゝ生えて山系は松の
心は生えて松の心は生えて

松竹
松竹
松竹
松竹
松竹

菜干

松の葉も少し枯れゆく冬は松の
葉の人の心をさす松の葉の
葉の心は馬の心は松の心は
あつたまゝ生えて山系は松の
心は生えて松の心は生えて

菜干
菜干
菜干
菜干
菜干

蕭

麦

廿
四

鷓鴣

卷五

時より多に似付意の事有難
夕暮のけふは更やねむり

妻前て後の人まは山能
 まふかき起し妻を知らずさう
 親子しく、妻前家のなまうす
 妻前やむいりあうも一家内
 つ耐あも紅葉たけけやまの妻

飛鳥外子孫

[illegible][illegible]

松樹子樹寸波平小松多為

新入本家聲源

五つともくわゆる
 破子

入
月の本を
ro
まの
た

[illegible]

7
1
8
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
8

由 格

五株

石古

書人

檣
 檣

撰

芝

長

宝

駁

13

2

鳥 千

W B

23

卷五

約瓶のやうな

卷之三

つるはらの木、うけ

在 此 處 有 一 座 山 叫 作 龍 山

卷之四

成るべく

小坡子

新入本家静海

之
も
う
な
り
ま
破
々
考

月のあけ

今更

卷之三

ひやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら
 ちやうのほろこはふらふら

清富 五株 山外 青府 白外 眉白 雪黄 松雪 灰山

水鳥

水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら
 水鳥のほろこはふらふら

水鳥 五株 山外 青府 白外 眉白 雪黄 松雪 灰山

追馬

追ひつゝ馬追ふ所の事あり
追ひつゝ咽うる所ありまはれり

乃古
乃古

鯨突

鯨突人死にけり中より
突を山と鯨とありのうらみ

乃古
乃古

細代守

細代守下を以て細代小
島持て細代守ありあり
守りありを老をわたりあり
守りありを細代守あり
細代守ありを細代守あり

由換
白路
施根
井古
吳城
乃古

羅

羅のうらとありけり細代守
羅のうらとありけり細代守
ありけり細代守ありけり
ありけり細代守ありけり
ありけり細代守ありけり

乃古
乃古
乃古
乃古
乃古

生海

生海のうらとありけり
生海のうらとありけり
ありけり生海ありけり
ありけり生海ありけり
ありけり生海ありけり

乃古
乃古
乃古
乃古
乃古

鱸

鱸魚は海に生る魚なり鱸は海に生る魚なり

大木

河

河人は海に生る魚なり河人は海に生る魚なり

大木

鱸

鱸魚は海に生る魚なり鱸魚は海に生る魚なり

大木

乾

乾魚は海に生る魚なり乾魚は海に生る魚なり

大木

菜

喰

菜喰は海に生る魚なり菜喰は海に生る魚なり

大木

菜喰は海に生る魚なり菜喰は海に生る魚なり

大木

入江菰野

子山

ふひはなせぬあふり

三

司之人其志也

風文

有らふは多し

機月

夢の如く

1072

挽
ひ
ふ
と
ま
り
な
る

笑山

何花の影

琴

卷之六

公和

萬曆二十九年

27

竹葉青

4

卷下

書

如何物也博多之武吉分

3

子午時

卷

卷之六

新

川あをたすく
3. あふらん
85

分

のたふしつゝあふれ

五

28 初子 打金 如人 打

五

大入のまゝに

✓

臺の如くをむきん成

2

冬 籠

金

備

圖

海

子

頭
中

足
袋

あつゝをばしつゝおのふふふ

如年

出たての試みのをせしめし

如什

りあつゝをばしつゝおのふふ

如什

るゝゝをばしつゝおのふふ

如什

先肩をうけつゝおのふふ

如什

親の身をつまみしつゝおのふふ

如什

抱ひつゝをばしつゝおのふふ

如什

おのふふをばしつゝおのふふ

如什

判じは又きつゝをばしつゝおのふふ

如什

川口をたふしつゝおのふふ

如什

親のゝゝをばしつゝおのふふ

如什

華のゝゝをばしつゝおのふふ

如什

藤人の足袋をけしつゝおのふふ

如什

戦いゝゝをばしつゝおのふふ

如什

火鉢

突つけや家をりやを火鉢が
まゝあは火鉢を老のあゝ

床
松

湯

森屋のやまの湯は小た
中先もさあ湯はあもあては
の煙はまゝを森にたん不
さひまを指出てるあんが

三
味
屋

火

冬

雪も何と都のやあひの
海川と桐は白ひ千物も
つと桐と新湯の森屋や冬

山
外
月

火鉢

火鉢のやまの湯は小た
中先もさあ湯はあもあては
の煙はまゝを森にたん不
さひまを指出てるあんが

大
松

火鉢

火鉢のやまの湯は小た
中先もさあ湯はあもあては
の煙はまゝを森にたん不
さひまを指出てるあんが

大
松

火鉢

火鉢のやまの湯は小た
中先もさあ湯はあもあては
の煙はまゝを森にたん不
さひまを指出てるあんが

大
松

火鉢

火鉢のやまの湯は小た
中先もさあ湯はあもあては
の煙はまゝを森にたん不
さひまを指出てるあんが

大
松

水枯

水枯はくち枯れ行くも水はくち
都市の水はくち水はくち
風家の水はくち水はくち
水はくち水はくち水はくち

恒福 理玉 水 茶 部

雪車

雪車はくち雪車はくち
戸屋はくち雪車はくち
雪車はくち雪車はくち
雪車はくち雪車はくち

大 松 雪 大 松

納豆

納豆はくち納豆はくち
出はくち納豆はくち
納豆はくち納豆はくち
納豆はくち納豆はくち

豆 納 豆 豆 納

櫓

櫓はくち櫓はくち
櫓はくち櫓はくち
櫓はくち櫓はくち
櫓はくち櫓はくち

丁 出 櫓 子

寒入

有りや燈りけを人のしるし
 月や光に照る所の松
 有りや来りて人のしるし

杜松
文選

今き皆戸の通を極め、空の入
隙をも納く空の入あり一紙

無 漢
牙 瘦

今更に入在方の常々如

柔靜

寒の肉

室のくまの南カサリ
朱漆の椅子付のくま

秋 双
香

卷之五

寒聲

空所へは、過るゝ空のくろ
空聲の點々、月平水の音

重傷
松中

瞬

手結餅は加えて使う帽よりれ
 餅の味は口より餅の穀
 餅の味より餅の味より餅の味

按 雙
雙 波

眠

徳やまのうゝあへる　其大
 徳やまのうゝあへる　其大
 ありきやねまのうゝあへる

紫秋松
水香羅

春

待

見

行

龍

忘

Handwritten notes in cursive script, likely a diary or journal entry, spanning the top half of the left page.

Vertical text on the left side of the top half, possibly a list or index of items mentioned in the notes.

Handwritten notes in cursive script, continuing the diary or journal entry on the bottom half of the left page.

Vertical text on the left side of the bottom half, continuing the list or index of items.

५०५

除夜

1. 水の性質
 2. 水の循環
 3. 水の利用

1. The first part of the book is a history of the
 2. second part is a description of the
 3. third part is a description of the
 4. fourth part is a description of the
 5. fifth part is a description of the
 6. sixth part is a description of the
 7. seventh part is a description of the
 8. eighth part is a description of the
 9. ninth part is a description of the
 10. tenth part is a description of the

東坡先生詩集

卷之四

乙 書 物 良 病 相

247

世已

小池

[illegible]

完仁無任乃
性疾之相因

黃子如

小兒
小兒

年之内立来

松伐て雪けりあち中著る年
栢さるるあ引一把るる年
いそがしき年のあを推し新
うも推し人のあを以て家著り
あといは推し雪もいえて年のあ

雪屋
三層
理玉
為也

春より何れ遊さんといふの
あ松あつて申るああや年の
今跡さるるあを推し新
し物を生きたるあを以て年の
生きたるあを推し新

あらあ
原都
一推
幻外

郎詠之部

川邊は雪あふるあを推し新
神のあを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新
あを推し新

漢史
引二
原都
一推
幻外
雪屋
三層
理玉
為也

かゝるふ過一の佛芭蕉居士
もまゝそまにむとくうの歌
や万葉うゐいこもとくちく
ちとわ利ふろ久して今乃を
の人乃をいやましくみまけう
きもかゝる入易仲乃一さをも
弘通十流俗をうけりそ風
性にいさ入ままゐあふ波上人
達乃ちほはおおーかろさうんや

は破る山續る歌集乃まゐへ
ま物かきくよとをふそめ歌名
のあははーもとーはくりに
ゆはあそはへて勢あひまゐ
祖あけいゝまかーふくまゐ乃
あひきり成さをふめはまゐ
甚希有経轉讀乃を利に

あまのれとまゝのちりあま
とくは沙弥一とふい

江戸本石田十軒店萬笈堂英大助藏版俳書目録

○類題之部

俳諧發句五百題

春秋庵白雄房撰

小本二冊

同

新五百題

田喜庵護物撰

中本二冊

同

新々五百題

全撰

全二冊

同

名所千題集

全撰

全三冊

同

今人東風流

洞海舎涼谷撰
一具庵一具校

全二冊

同

十萬句集

全撰
全校

全四冊

同

故人五百題

松露庵撰

小本二冊

同

續故人五百題

一具庵一具撰

全二冊

同

類聚

八采園寥松撰

中本二冊

同

今人五百題

八雲東溟輯
涉壁千輅校

小本二冊

はまゝ人なる数もあつて字匠をいふは不及なりその家の数も四子
余海を集むる時は一瞬ふらふなりしかかゝる生をたふさる役なりと

同

類題

中本二冊

同

古今撰

蕪庵蟹守撰

全一冊

同

新類題

六合庵万里輯

全二冊

同

萬題集

一名題砂子

冬至庵庫年輯
八雲東溟校

全四冊

世に古集ありといふも古今をとりてははまゝ集をとりては古人の
数るをせせしむるなり其家よりいへばはまゝ集に似たりといふ所の
風流なりといふは一瞬は安んじしむる家なりといふ事なりといふ
らくはまゝにありといふ

同

秋葉集

仁比多居確嶺輯

小本四冊

仙諸用毎の目

全一冊

同

言笛集

錦舎素柳編
笠栖素行校

横本二冊

今人發句集

禾木園校輯

全二冊

四季發句帳

白紙七五三

艸丸大人輯

全一冊

○假名遣物

万葉用字格

春登上人撰

全一冊

對照假字格

長野美波留大人撰

懷中

折木一冊

音便假字格

春登上人撰

小本一冊

○句集之部

嵐雪句集 一稱玄峰集

全二冊

其角句集 坎窩久藏撰

全六冊

夢太句集

全二冊

吏登句集

全一冊

巢兆句集

全一冊

完來發句集

全一冊

梅翁宗因發句集

全一冊

太無發句集

存義發句集

獅子賦發句集

柳居發句集

棋秋瓶 甲斐州丸集

萬里句集 遠白口集

護物七部集

乙二七部集

饒舌錄 元木綱大人著

三吟未來記

俳諧寂志 春秋庵白雄著

今七部集 冬至庵唐年撰

今人附合集 永木園校輯

全一冊

全一冊

小本二冊

全二冊

全二冊

全一冊

全三冊

全二冊

全四冊

同

田喜庵輯

全一冊 全二冊

○季寄之部

葦雪庵北元著

小本二冊

一名俳諧初心手引

中本二冊

同掌中本

全
一
冊

俳諧袖鏡

寸珍
冊

季寄便臨見

枚撮

一、二、三、四、五

橫本一冊

俳諧通言

小本一冊

○文之部

新編俳諧文集

當時言者の人の
文をいづる

全
一
冊

俳諧變態一覽

兩面
一枚

袖
定
規

表俳諧定坐變體之圖

俳諧礎

○掌中寸珍物

編數々あり付今修
集州とあり

折

掌中五百題初編

集艸
初編

同

二編

集
州
二
編

同

三編

集州三

編

同

芭蕉發句集

集州四

編

同

其角發句集初編

集州五

編

同

二編

集州六

編

同

三編

集州七

編

同

嵐雪發句集初編

集州八

編

同

二編

集州九

編

同

乙由發句集

集州十

編

同

蓼太發句集初編

集州十一

編

同

新五百題初編

集州十二

編

同

二編

集州十三

編

同

三編

集州十四

編

同

古今撰

集州十五

編

同

猶逆々出刺

集州十六

編

涉壁爲山 久次 撰

弘化二年乙巳春正月

本石町十軒店

東都書肆

萬笈堂

英大助板

掌中故人五百題

懷中橫本 全一冊
全薄用撮

此集を祖翁より傳へ其南窓を聖賢故去來
文學文學の汗を余が家にもつた御家より
白くあるは出されはる明達中并ねる世々ある
是よりあるは出されはる明達中并ねる世々ある
已に其旨を文子再刻ありしを今も掌中はる要の
君子余の庠校の便利ありしを今も掌中はる要の
懐子世に傳へる例を案のたしを今も掌中はる要の
友人の名を今も掌中はる要の

三部

發行

書林

京都三条通升屋町

出雲寺文次郎

大坂心齋橋筋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同 安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同 日本橋通二町目

山城屋佐兵衛

同 一町目

須原屋茂兵衛

同 淺草茅町二町目

伊八

同 本石町十軒店

英 大助板

